

## 1. 上位関連計画等

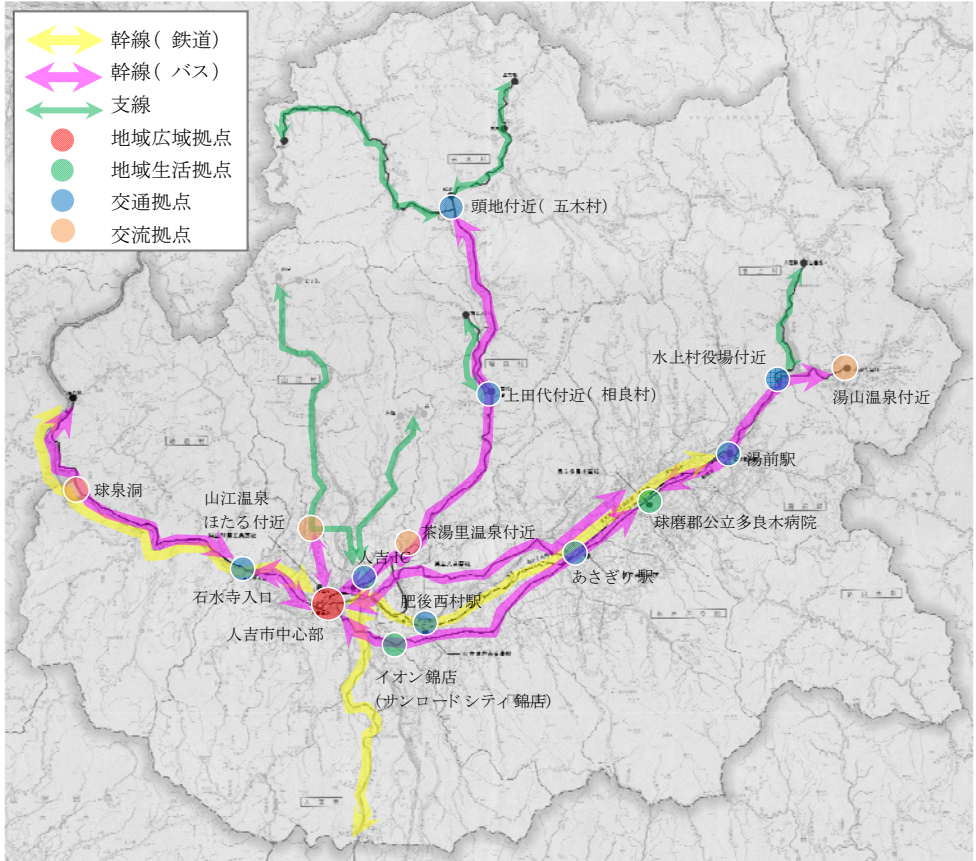
### (1) 第5次水上村総合計画

目標年度	平成37年度
基本構想	<p>【テーマ】 人と自然が輝く未来へ</p> <p>【施策の大綱】</p> <p>第1節 豊かな自然と共存する村づくり 第2節 健康でいきいきと暮らせる村づくり 第3節 交流の持続と地域活性化の推進 第4節 活力ある産業の振興 第5節 ふるさとに親しみ、人と地域をはぐくむ教育 第6節 高度情報化社会に応じた環境整備 第7節 村民と行政の協働による村づくり</p>
基本計画	<p>第1章 豊かな自然と共生する村づくり 第3節 安全で快適な居住環境づくり <b>3 地域のモビリティ確保</b> (基本方針) 公共交通の問題解消のため、地域住民のニーズを踏まえ、持続可能な地域の交通体系の構築を目指します。 また、交通事業者との協議については自治体がサポート役として臨みます。 (具体的施策) 1 調査検討委員会の設置 (1) 関係機関による検討委員会を設け、意見、情報を収集します。 2 路線バス・鉄道運行の維持 (1) <b>現在運行している系統について、乗車率の低い路線は、他町村との協議を踏まえながら検討し、骨格となるバス路線の維持に努めます。</b> (2) くま川鉄道の維持存続を図るため、多方面からの利用促進に努めます。 3 交通弱者の移動手段 (1) 車を運転しない交通弱者のため、福祉バス運行等の移動手段を検討します。 第6章 高度情報化社会に応じた環境整備 第1節 道路交通体系の整備 1 道路 (基本方針) 住民の生活行動の広域化に対応した交通手段を確保するために、路線バス、くま川鉄道の運行の維持強化に努めていきます。 (具体的施策) 4 バス・鉄道運行の維持 (1) 住民生活に密着したバス路線の確保を今後も続けていきます。 (2) くま川鉄道の維持存続を図るため、多方面からの利用促進に努めます。</p>

### (2) 水上村まち・ひと・しごと創生総合戦略

目標年度	平成31年度
今後の施策の方向	<p>3) 地域のモビリティ確保</p> <p>公共交通の問題解消のため、地域住民のニーズを踏まえ、持続可能な地域の交通体系の構築を目指します。</p> <p>また、交通事業者との協議については、自治体がサポート役として臨みます。</p>

## (3)人吉・球磨地域公共交通網形成計画

目標年度	平成 33 年度
地域公共交通が果たすべき役割	役割① 地域が目指す将来像への貢献 役割② 誰もが日常生活を不自由なく送れるための移動手段の確保 役割③ 圏域内外の活発な交流促進への貢献
対応方針	<p>【基本理念】</p> <p>地域全体の持続的な発展、安心して暮らせる地域づくりを支える基盤として、地域内交流や観光需要への対応・利便性向上を図りつつ、持続可能な地域公共交通体系を創出します</p> <p>【課題解決に向けた対応方針】</p> <p>対応方針①：地域づくりと一体となった地域公共交通網の形成</p> <p>対応方針②：多様な交通モードの連携による地域公共交通網の形成</p> <p>対応方針③：幹線系統の路線バスを対象とした路線再編</p> <p>対応方針④：地域公共交通の利用促進・需要創発の促進</p> <p>対応方針⑤：地域住民・交通事業者・行政の連携・協働による地域公共交通づくり</p> <p>【目指す地域公共交通体系像】</p> 
計画の目標	目標①：持続可能な公共交通ネットワーク（路線バス）の形成 目標②：拠点の創出及び交通結節機能の強化 目標③：公共交通利用環境の向上 目標④：地域公共交通に関する新たな仕組みづくり

## 第2章 水上村の現状等

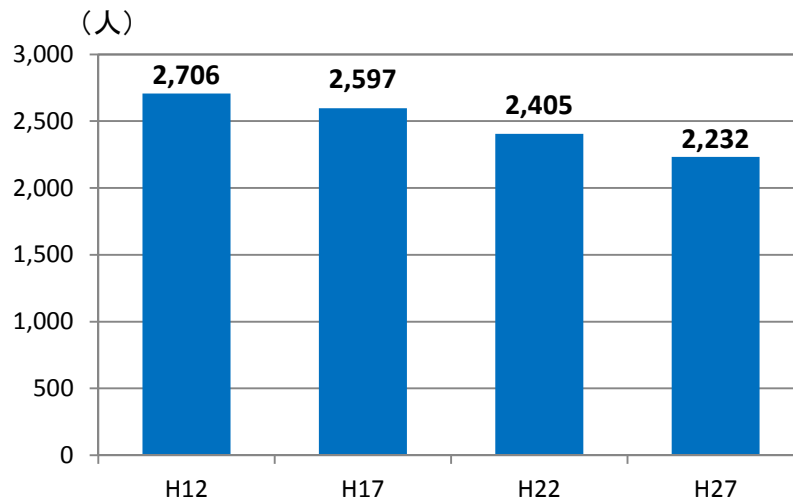
<b>目標達成のための 施策・事業</b>	<p>目標①：持続可能な公共交通ネットワーク（路線バス）の形成</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○幹線系統を対象とした路線バスの再編</li><li>○人吉市地域公共交通網形成計画及び実施計画の策定</li><li>○各町村における地域公共交通計画の検討及び実施計画の作成</li></ul> <p>目標②：拠点の創出及び交通結節機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○拠点の創出（医療施設や商業施設との連携、その他拠点整備）</li><li>○拠点における乗換情報等の設置・充実</li><li>○接続ダイヤの調整、運行ダイヤの見直し</li><li>○乗り継ぎ運賃割引制度の導入</li><li>○共通定期券の導入</li><li>○パーク＆（バス）ライド、サイクル＆（バス）ライド駐車場等の設置</li></ul> <p>目標③：公共交通利用環境の向上</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○主要な乗降場所への上屋・ベンチ等の設置</li><li>○乗降場所の見直し、新設</li><li>○鉄道、路線バス、乗合タクシー等の共通乗車券の導入</li><li>○乗降場所の時刻表等の改善</li><li>○鉄道、路線バス、乗合タクシー等の一元的な公共交通マップの作成</li><li>○輸送安全性確保のための鉄道施設維持管理の計画的実施</li></ul> <p>目標④：地域公共交通に関する新たな仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○公共交通サポーター制度の導入</li><li>○免許返納制度の推進</li><li>○バス車内等を活用した小学生等の作品展示</li><li>○観光、商業施設と連携した企画切符等の導入</li><li>○事業者が学校等を対象としたモビリティマネジメントの実施</li><li>○地域イベントと連携した公共交通利用促進キャンペーンの実施</li><li>○地域公共交通だよりの継続発行</li></ul>
---------------------------	---

## 2. 社会情勢・経済情勢

### (1) 人口等の状況

#### ① 人口の推移

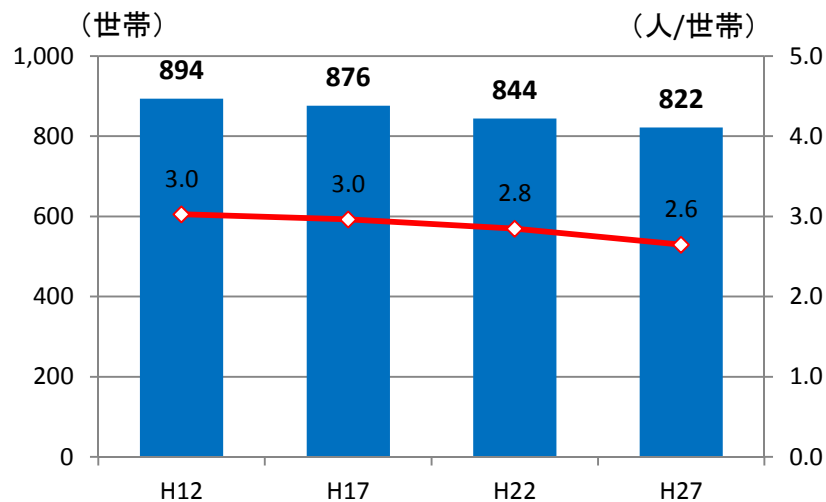
水上村の人口は年々減少しており、15年間で約18%減少し、H27時点で2,232人。



資料：国勢調査

#### ② 世帯数の推移

水上村の世帯数も同様に年々減少しており、15年間で約10%減少し、H27時点で822世帯、1世帯あたり人数は2.7人。

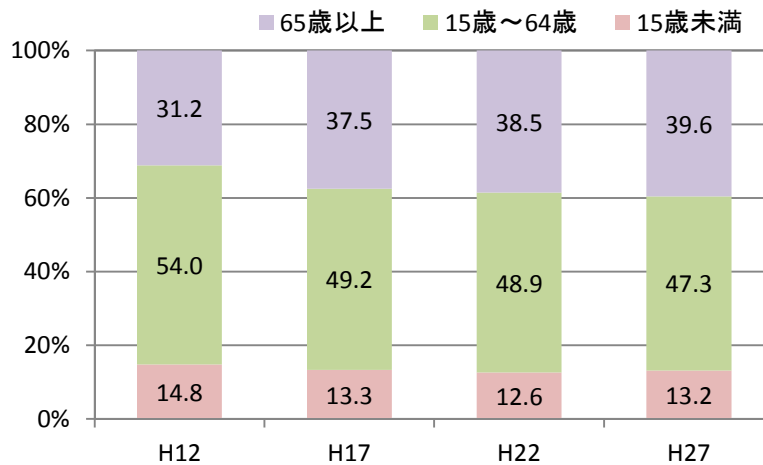


資料：国勢調査

## 第2章 水上村の現状等

### ③年齢構成の推移

水上村の年齢構成は、15歳未満の人口が減少し、65歳以上の高齢化率がH27時点で39.6%と高齢化の進展が著しい。

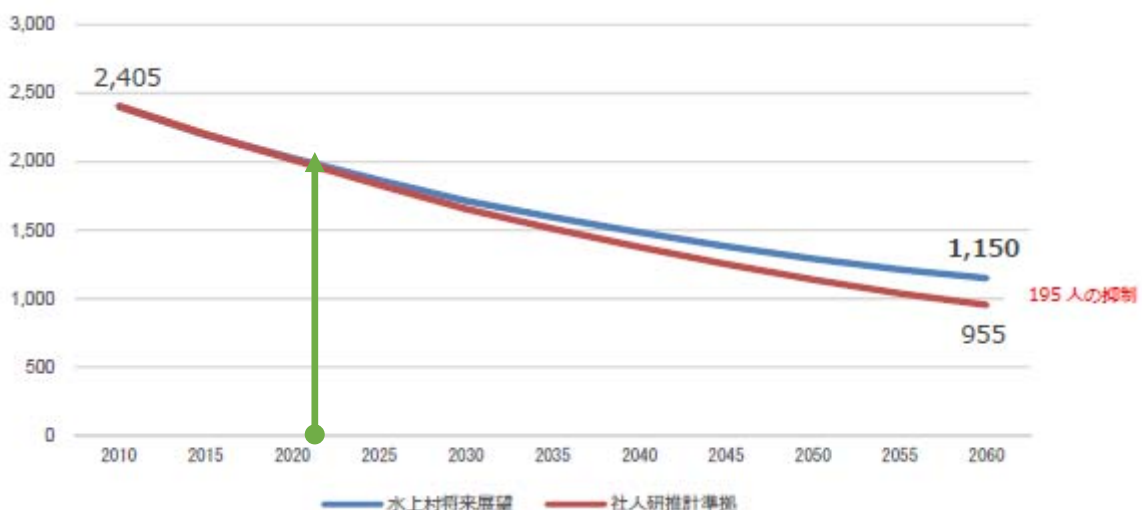


資料：国勢調査

### ④人口の将来展望

水上村の人口は、概ね5年後の2020年には2,000人程度に減少し、その後も減少を続ける展望となっている。そうした中、下記の4つの視点より地方創生を推進することとなっている。

- I 水上村に安定した雇用を創出する
- II 水上村への新しいひとの流れをつくる
- III 水上村に住む若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- IV 時代にあった地域をつくり、水上村の安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を結ぶ



資料：水上村人口ビジョン（平成27年10月）

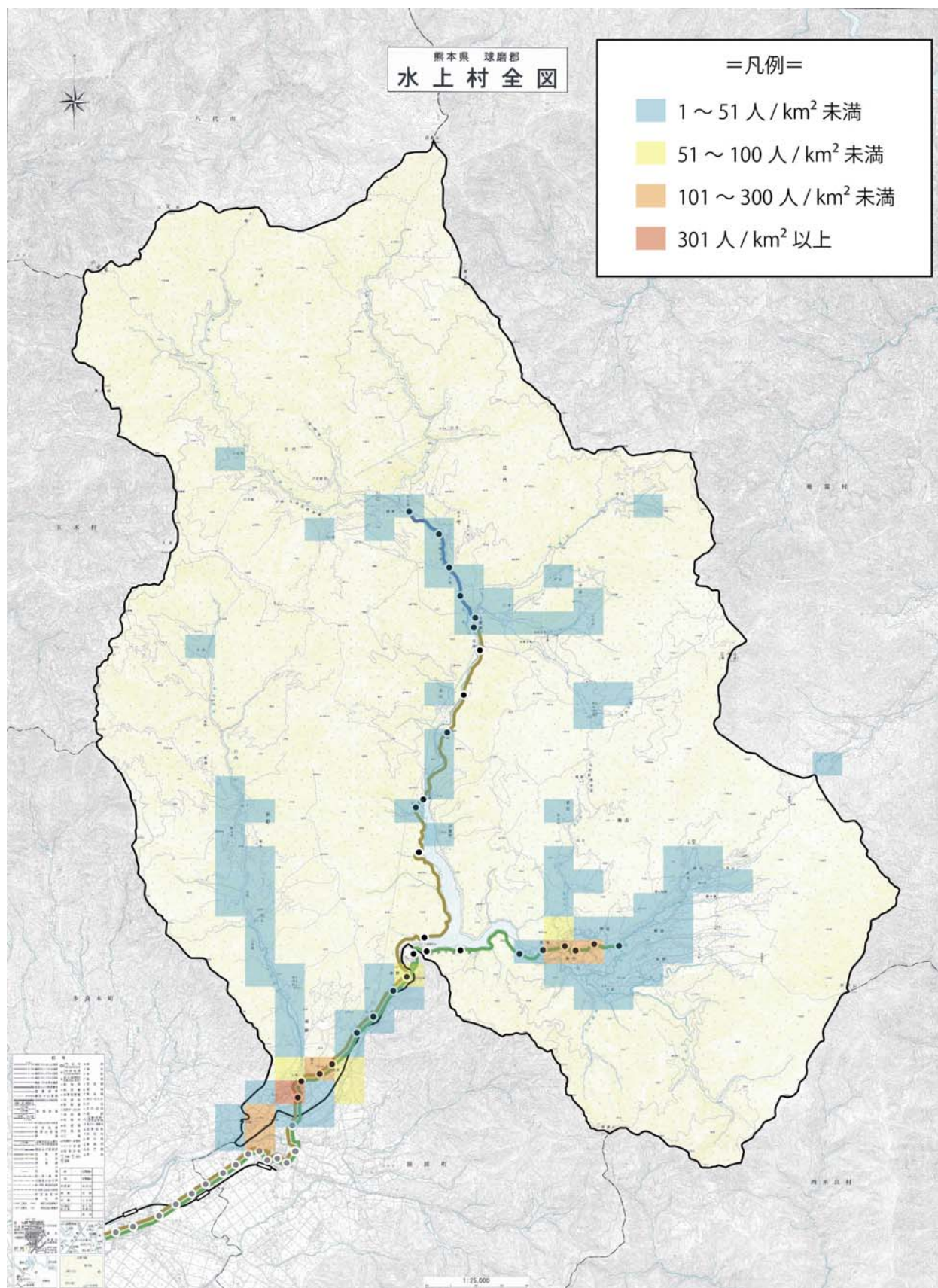
※合計特殊出生率は、2025年までに2.00、2035年までに2.10に上昇し、その後は2.10で推移する。

※人口の移動は、現在の社会減が2020年までに半分程度に縮小し、その後は均衡する。



## ⑤人口分布

水上村の人口は、路線バス沿線に分布しており、岩野地区や湯山地区に集中しているものの、路線バス沿線以外にも低密度で人口が分散している状況である。

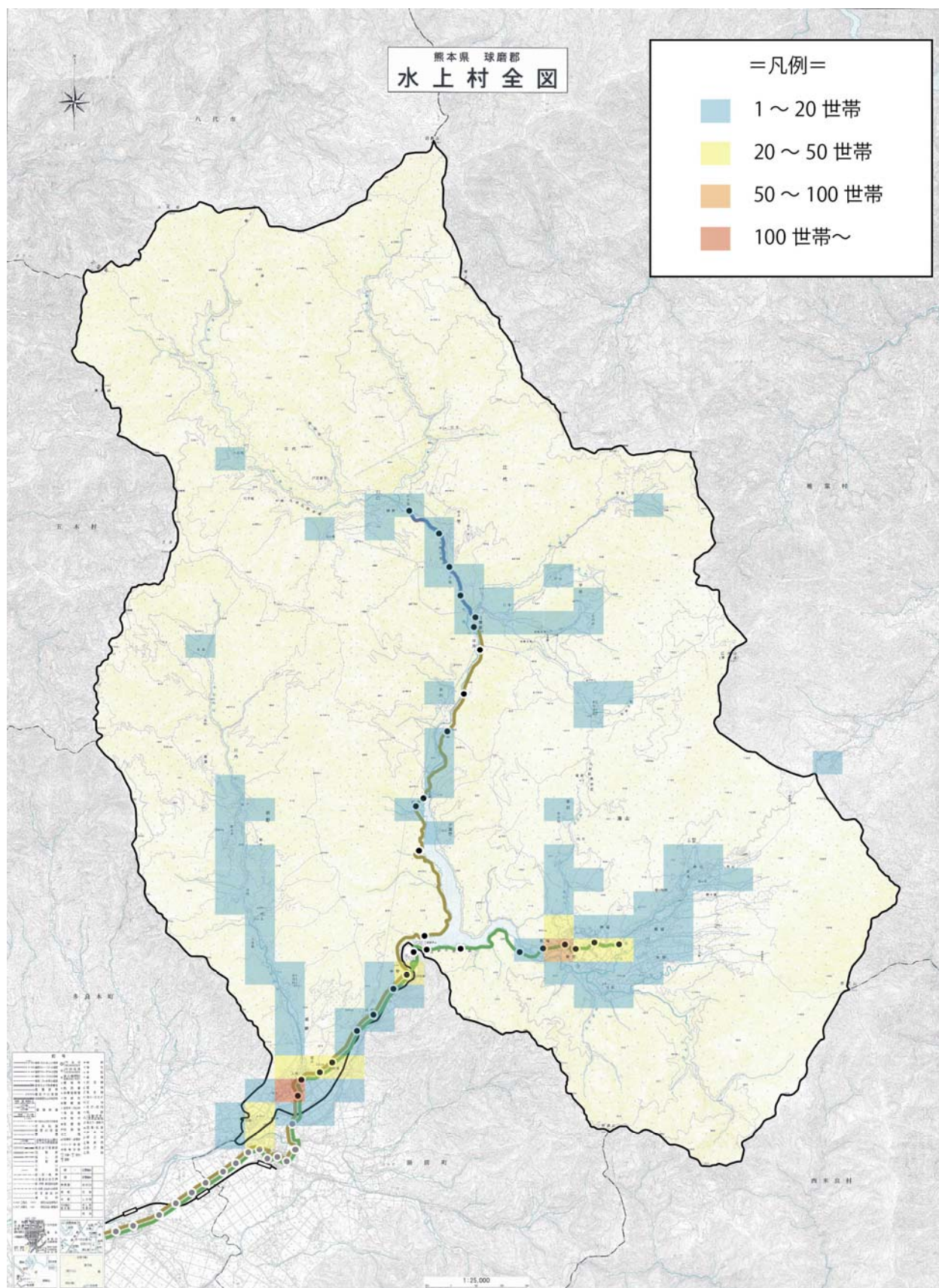




## 第2章 水上村の現状等

### ⑥世帯分布

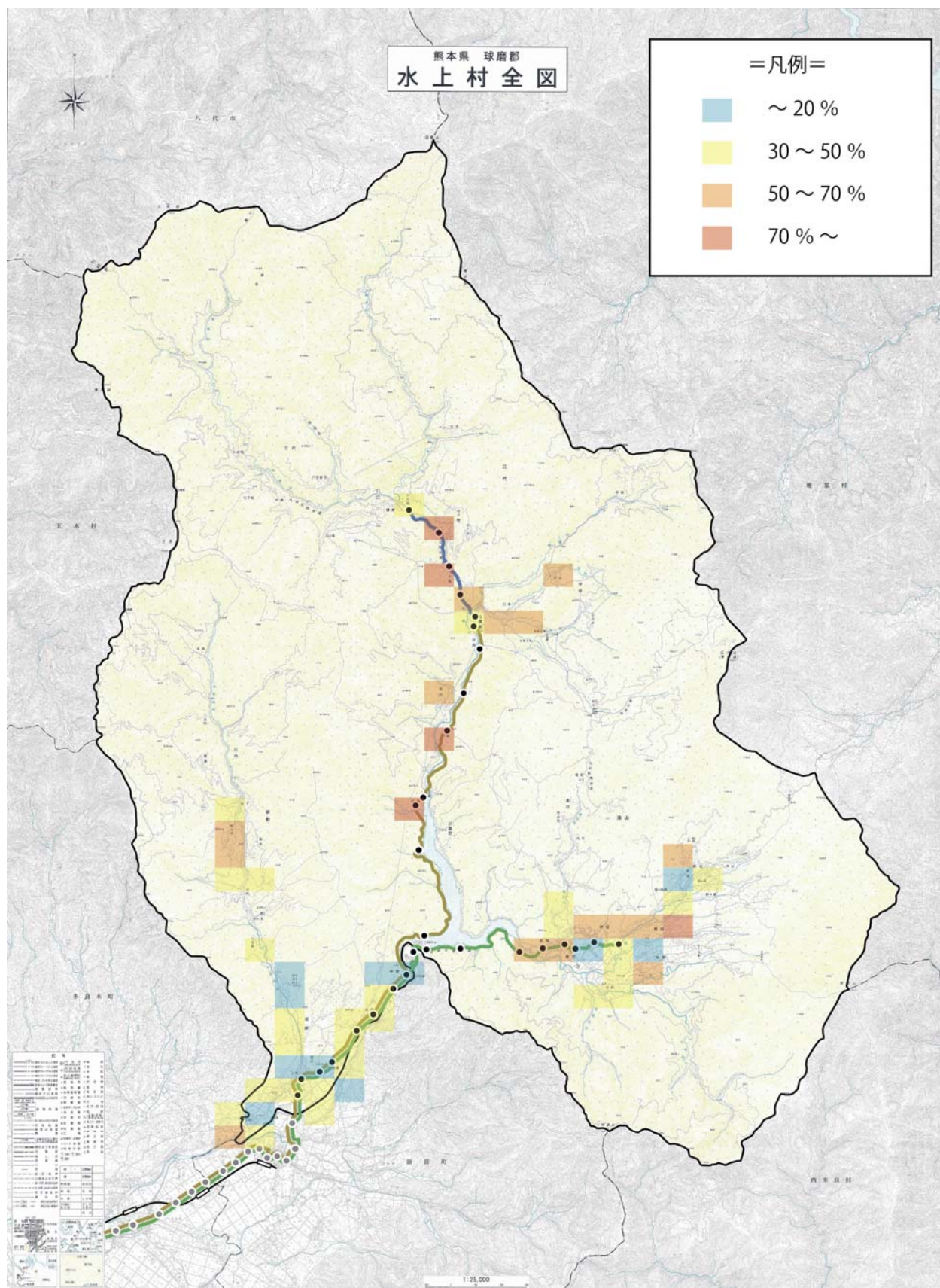
世帯も同様に、路線バス沿線に分布しており、岩野地区や湯山地区に集中している。





⑦高齢化率

高齢化率は全体的に高い地区が分布しているものの、特に、路線バス沿線以外の地区において高い傾向がある。

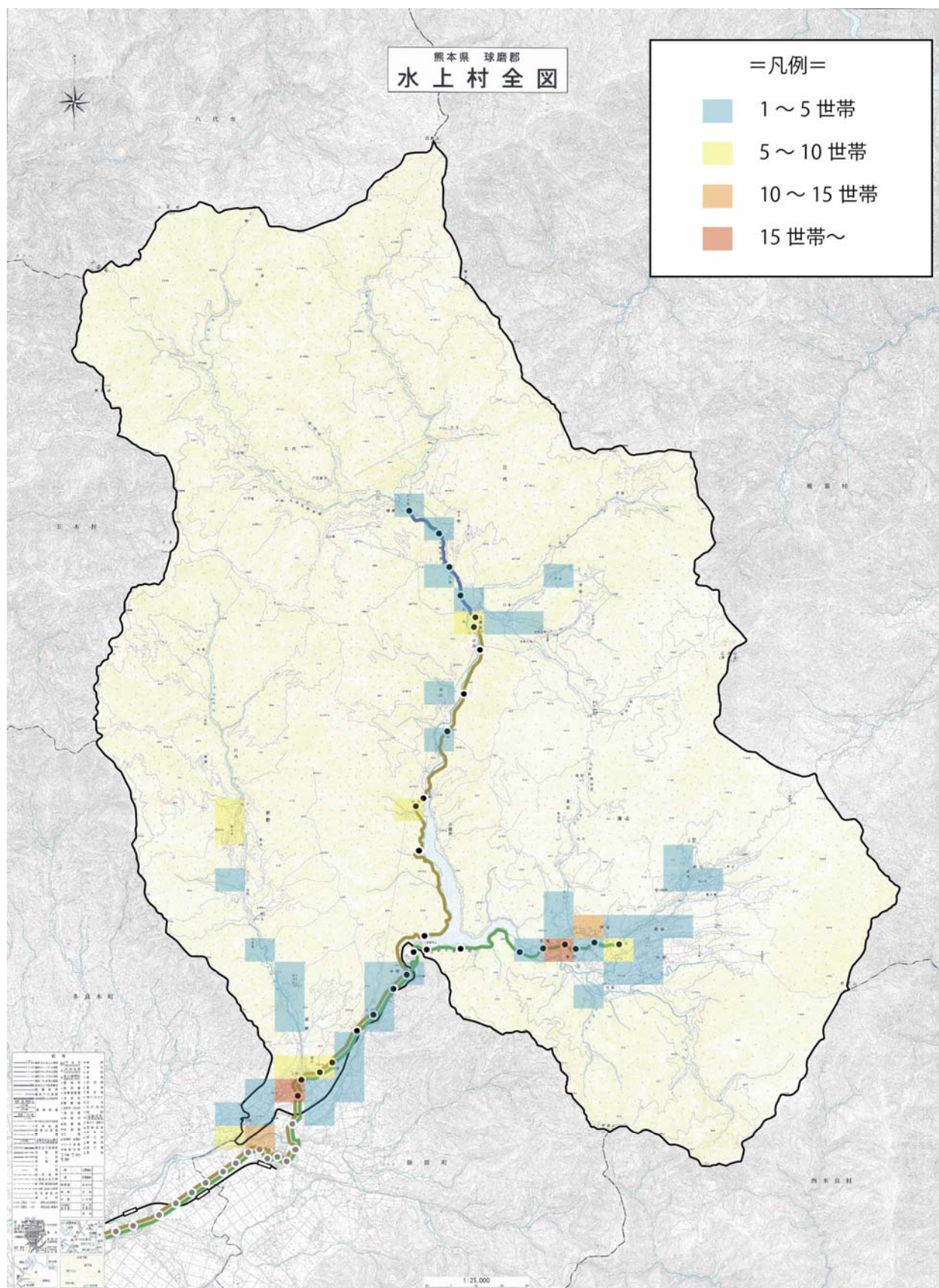




## 第2章 水上村の現状等

### ⑧高齢単身の一般世帯数

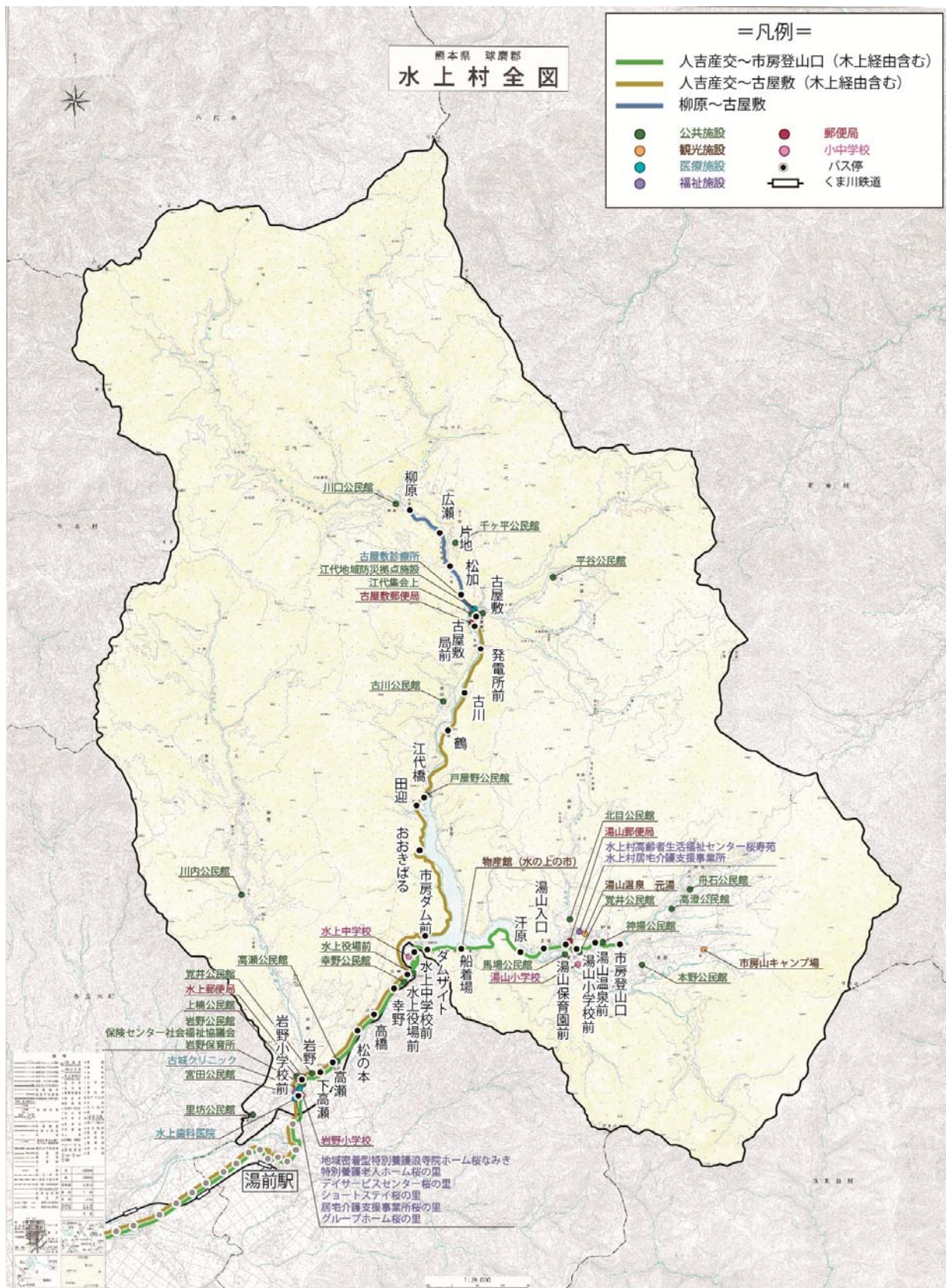
高齢単身の世帯数についても広く分布している状況である。





## (2)生活関連施設の立地状況

水上村の生活関連施設は、公共施設や郵便局などは各地域に分散しているが、医療施設は古屋敷に診療所があり、その他は岩野周辺に立地している。その他個人商店は立地しているものの、スーパー等の商業施設は立地しておらず、他の市町村に依存している状況である。

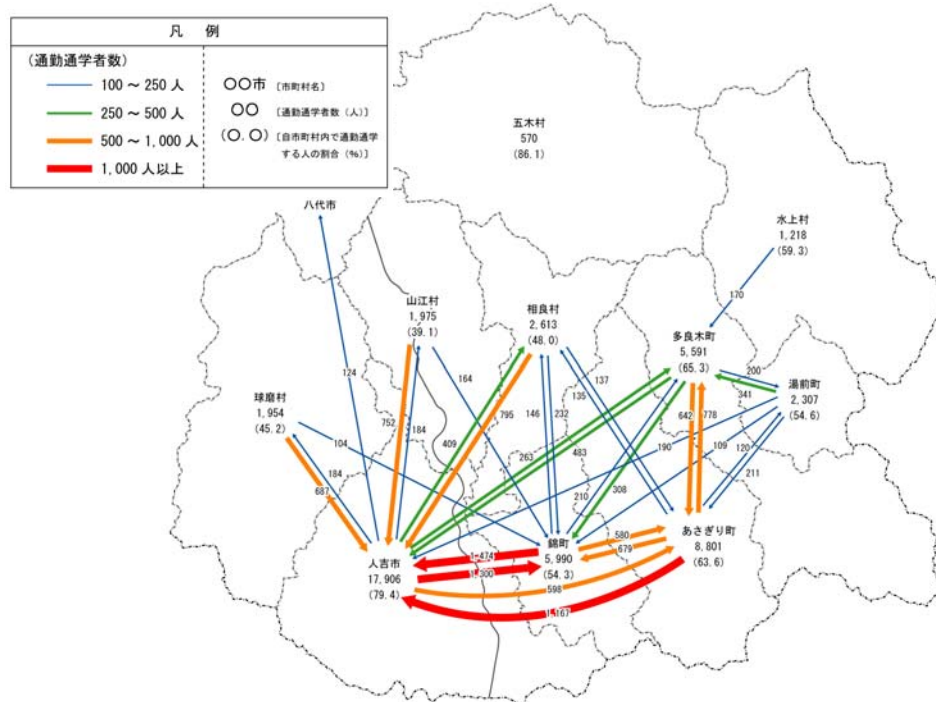


## 第2章 水上村の現状等

### (3)交通流動

#### ①通勤通学流動

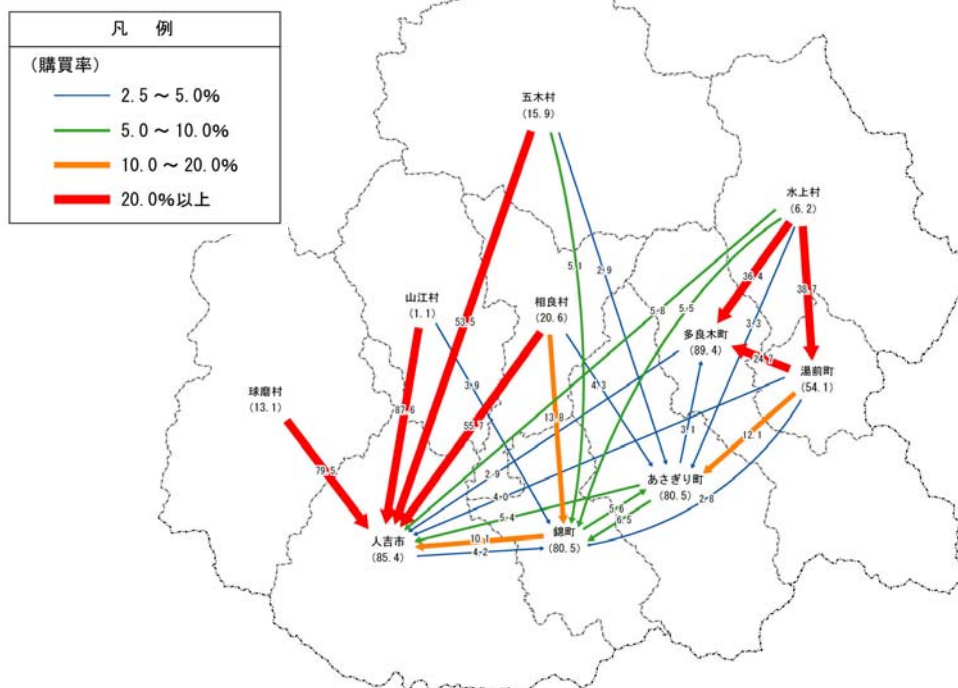
通勤通学流動は、自村への依存度が高い状況（59.3％）であるが、その他多良木町への流動も比較的多く見られる状況である。



資料：平成 22 年国勢調査

#### ②買い物流動

日常的な一般食品の買い物流動は、自村への依存度が 6.2%と低く、湯前町への購買率が 38.7%、多良木町が 36.4%と高い状況である。

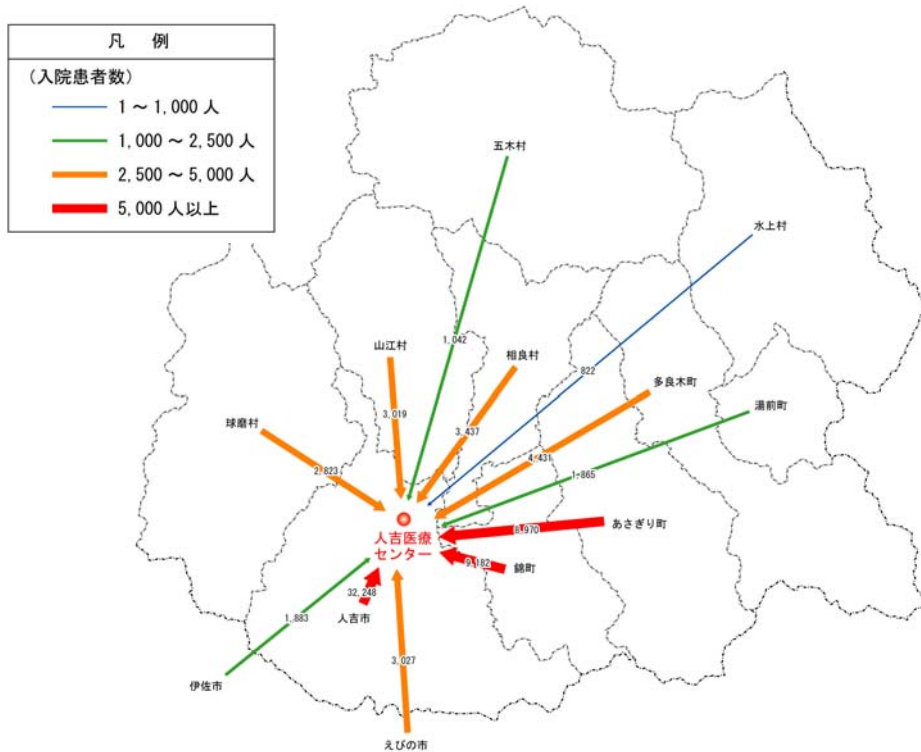


資料：平成 27 年度熊本県消費動向調査報告書(2.5%以上を図化)



## ③人吉医療センターへの患者数

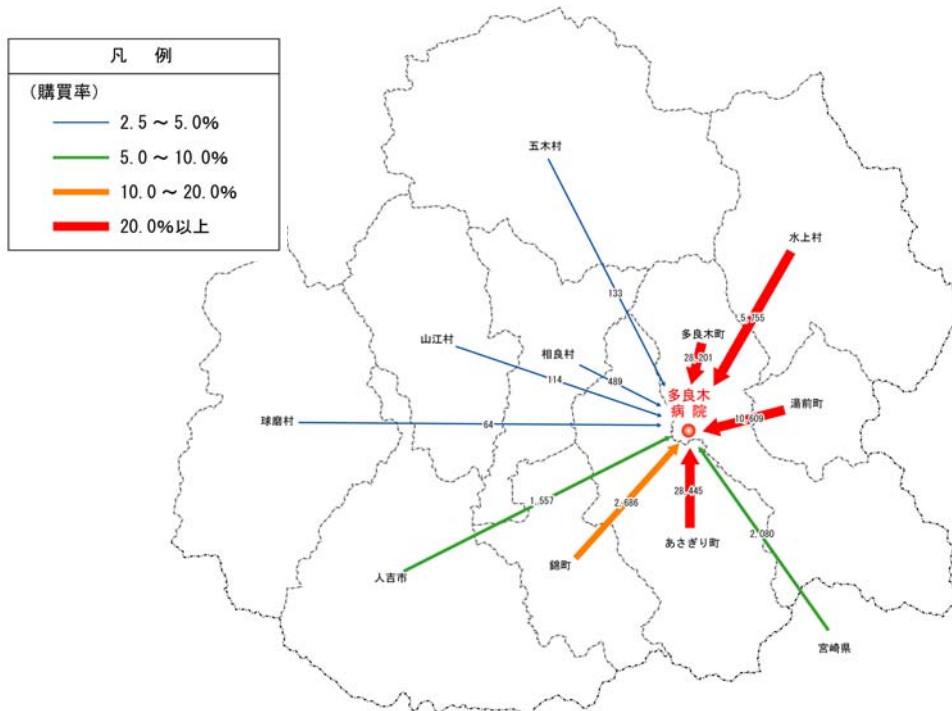
人吉利用センターへの年間の外来患者数は、水上村から822人となっており、他市町村と比較して少ない状況である。



資料：人吉医療センター（H26 年度）

## ④公立多良木病院への患者数

公立多良木病院への年間の外来患者数は、水上村から年間 5,000 人以上となっており、他市町村と比較してもかなり依存度が高い状況である。



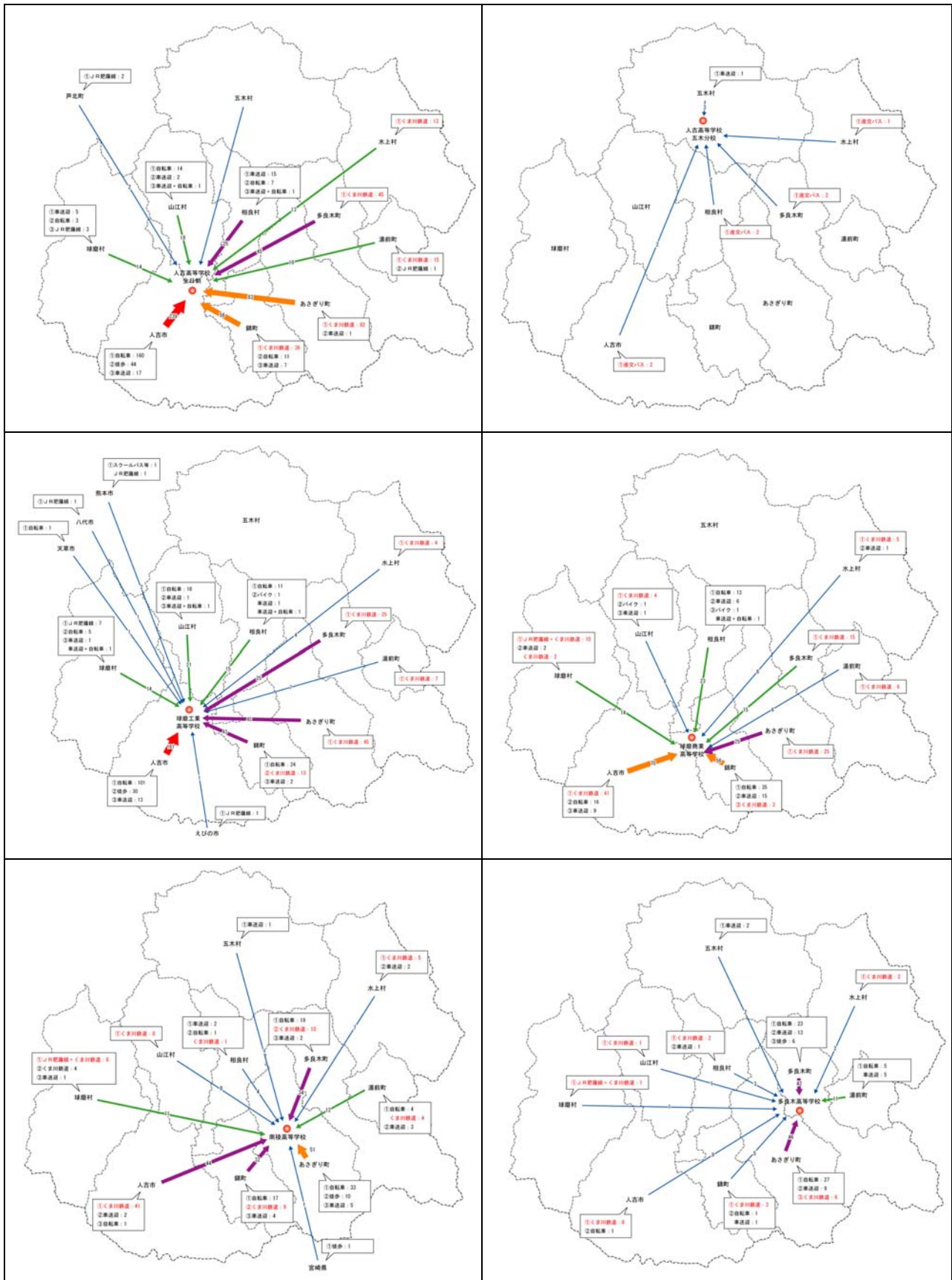
資料：球磨郡公立多良木病院企業団（H26 年度）

## 第2章 水上村の現状等

### ⑤高校への通学流動（H27 人吉・球磨地域公共交通活性化協議会 調査結果）

水上村の高校生は人吉・球磨の各高校に通学しており、その交通手段の多くはくま川鉄道となっており、湯前駅から利用していることが予想される。

※H29 時点：水上村の高校生の数 61 名、うちくま川鉄道利用者 48 名、産交バス利用者 1 名

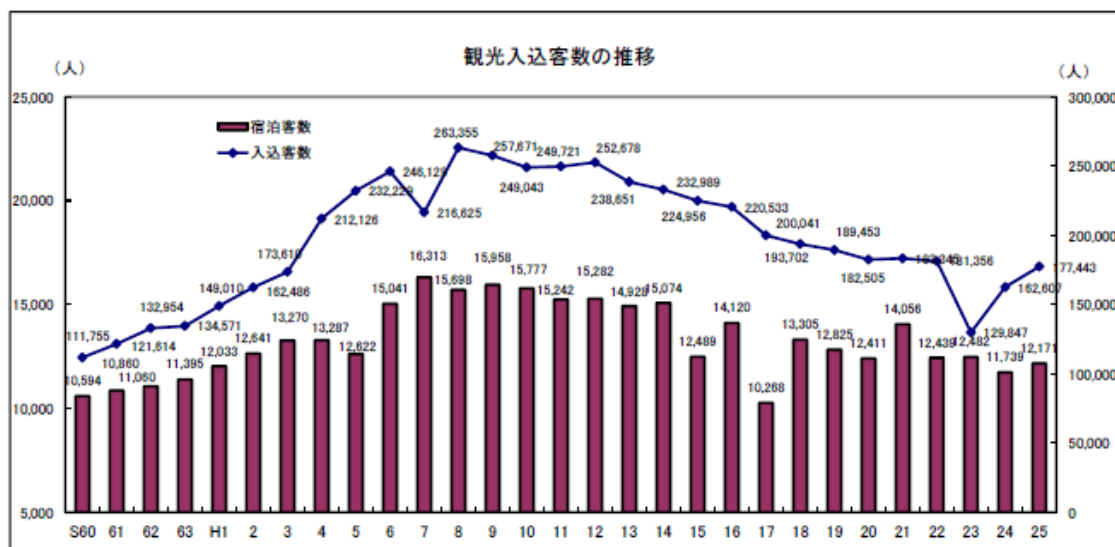


#### (4) 観光動向

水上村には自然等を活かした豊富な観光資源が存在しており、湯山温泉には人吉・球磨地域住民も休日に訪れている状況である。しかし、観光入込客数は年間 162,607 人となっており、近年は若干増加しているものの、平成 8 年以降減少を続けてきた状況である。



資料：水上村ホームページ



資料：第5次水上村総合計画

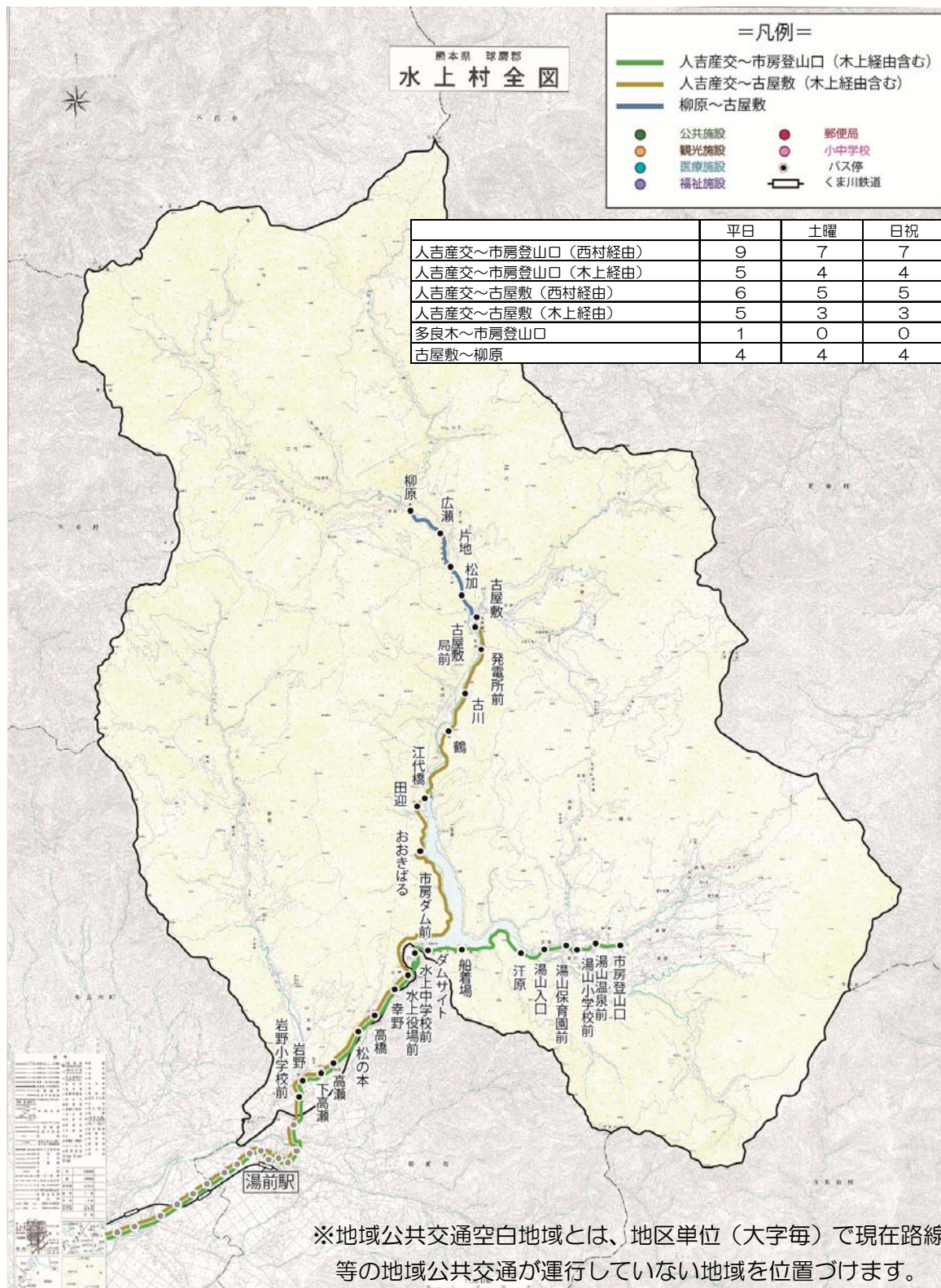


### 3. 地域公共交通の状況

#### (1) 地域公共交通の状況

##### ① 地域公共交通網

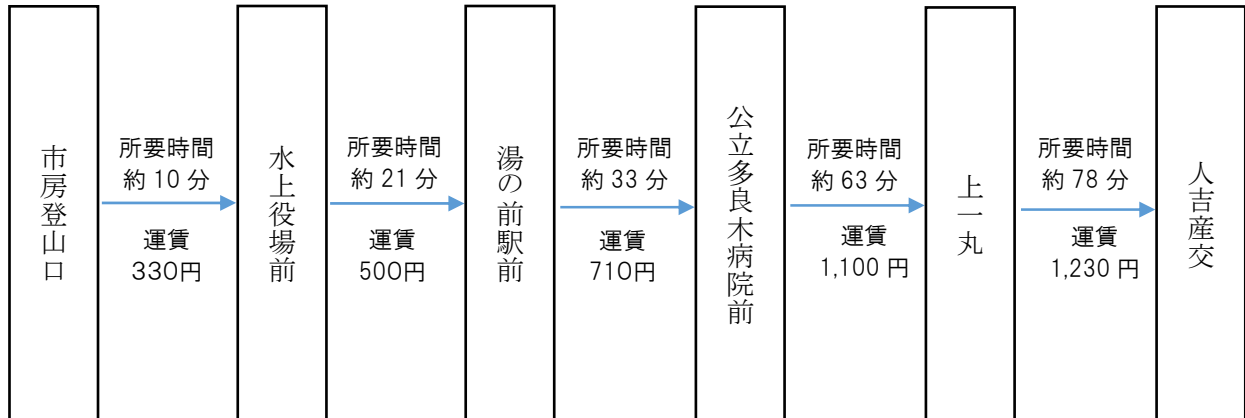
地域公共交通網は、路線バスが人吉産交～市房登山口、人吉産交～古屋敷、さらには柳原～古屋敷間を運行しており、平日で市房登山口方面が14本、古屋敷方面が11本運行している。  
 なお、路線バスが運行していない地域公共交通空白地域も見られる状況である。



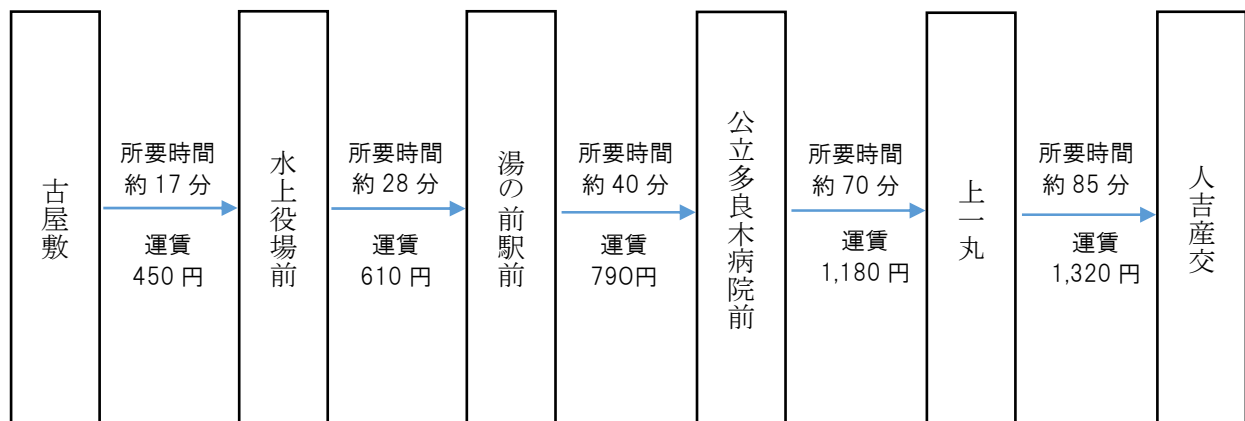
②運賃等のサービス

水上村から湯の前駅前へは、市房登山口から約21分500円、古屋敷から約28分610円であり、人吉産交までは80分前後で1,200円以上の運賃を要する。

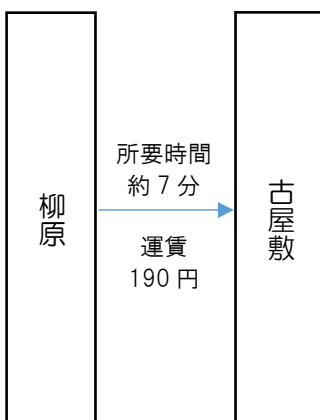
(市房登山口系統：西村経由)



(古屋敷系統：西村経由)



(柳原～古屋敷)



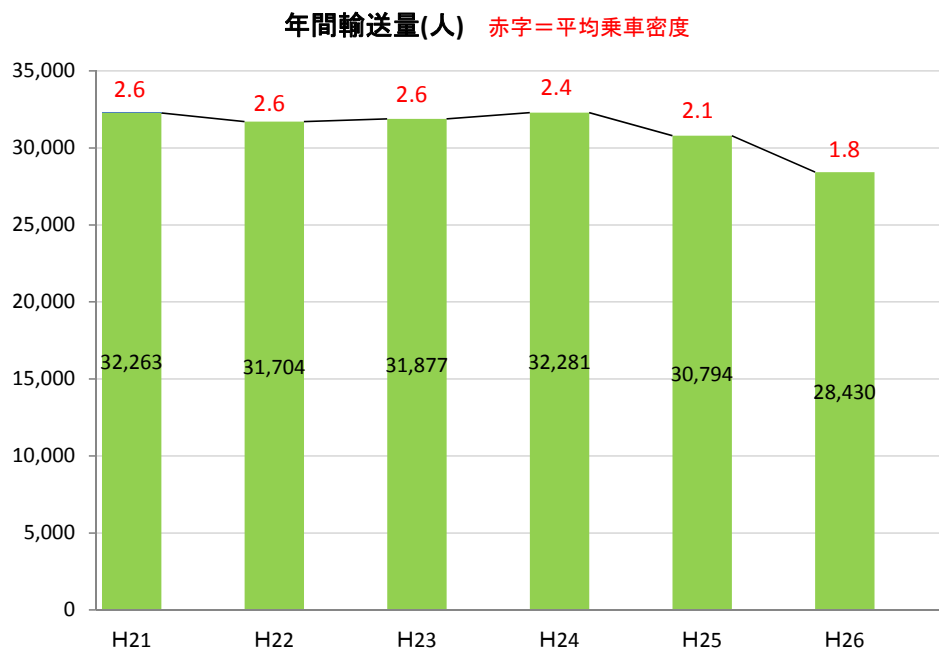
資料：産交バスホームページ

## 第2章 水上村の現状等

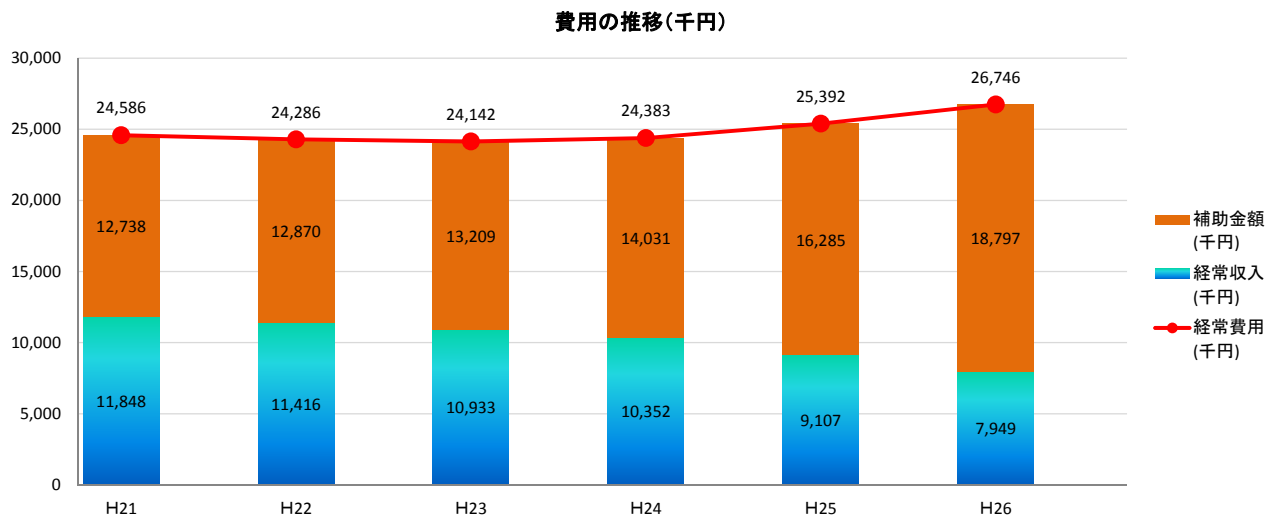
### ③利用状況等

(市房登山口系統：西村経由)

市房登山口系統の利用状況は、年間輸送量が年々微減しており、平均乗車密度はH26で1.8人となっており、輸送量の減少に伴い補助金額が増加している。水上村では、約26%にあたる年間約500万円を負担している状況である。



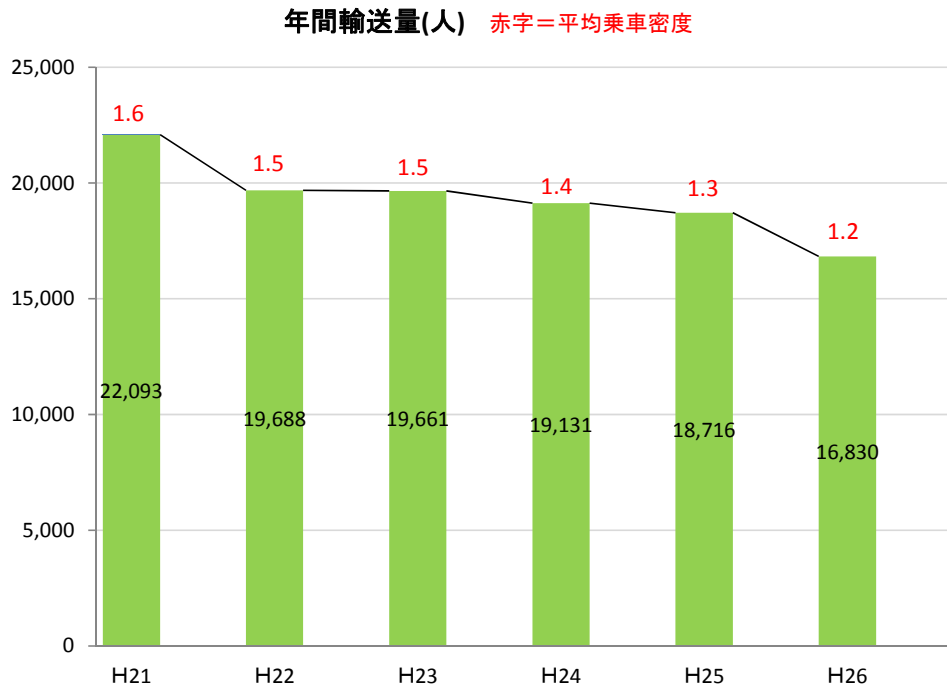
※平均乗車密度とは、路線の起点から終点まで平均して常時バスに乗車していた人数  
輸送人キロ（輸送人員×1人平均乗車キロ）/走行キロより算出



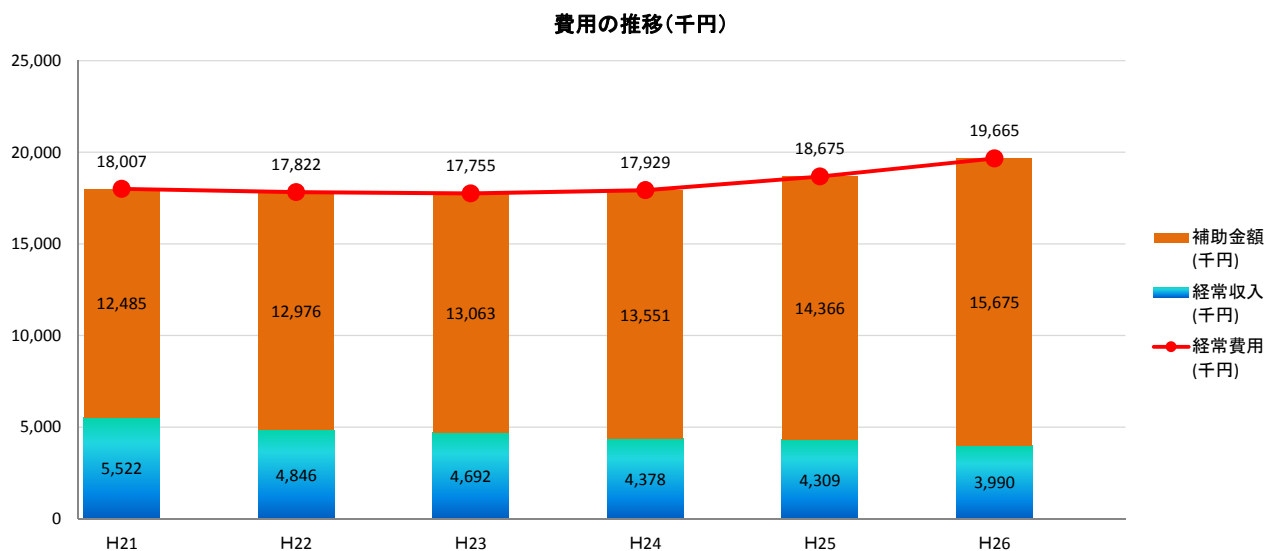


(古屋敷系統：西村経由)

古屋敷系統の利用状況は、年間輸送量が年々微減しており、平均乗車密度はH26で1.2人となっており、輸送量の減少に伴い補助金額が増加している。水上村では、約32%にあたる年間約500万円を負担している状況である。



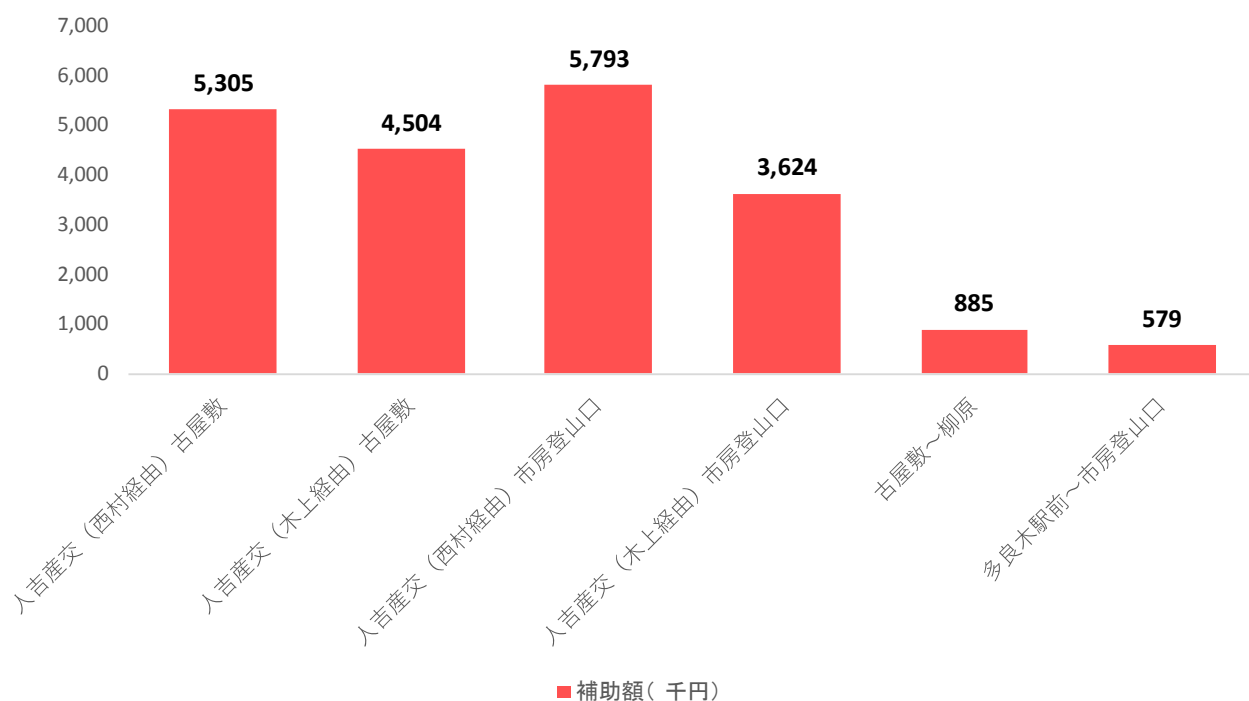
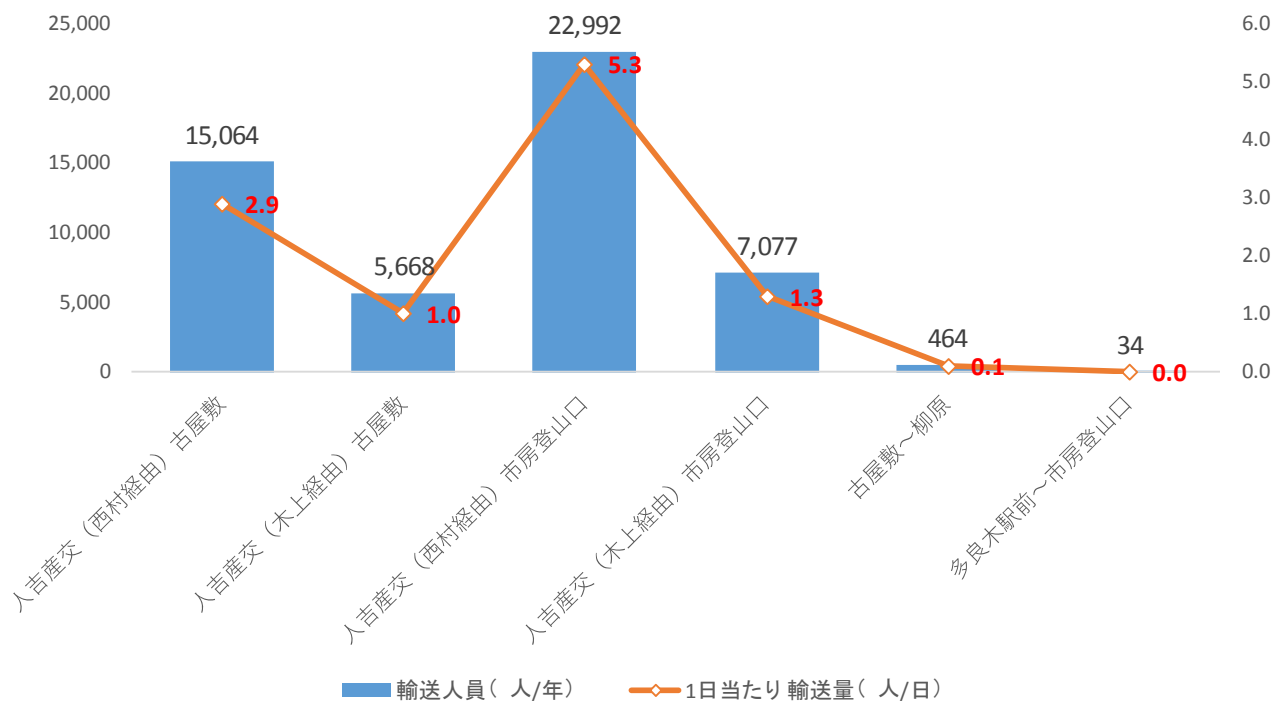
※平均乗車密度とは、路線の起点から終点まで平均して常時バスに乗車していた人数  
輸送人キロ(輸送人員×1人平均乗車キロ)/走行キロより算出



## 第2章 水上村の現状等

(水上村関連分：平成 27 年 10 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

路線バスに関する水上村の利用状況は、入吉産交（西村経由）市房登山口で最も多く、1 日当たり 5.3 人の利用が見られるが、木上経由は 1.0 人程度と少なくなっており、年間の路線バスに係る補助金は合計で 20,690 千円となっている。



資料：路線バス等維持事業に係る交付金充当計画明細表

## ④高齢者等タクシー利用助成の結果（平成27年度実績）

※村内の70歳以上の高齢者及び身体障害者手帳を持っている方を対象

（利用実態）

利用者の利用目的は、「医療機関・薬局」が最も多く、次いで「買い物」となっている。

**（助成件数2,275件＋複数用件70件） 2,345件**

■ 買い物での利用	555件	23.7%
■ 医療機関・薬局での利用	705件	30.1%
■ 金融機関・郵便局での利用	45件	1.9%
■ 官公庁での利用	31件	1.3%
■ 老人施設・老健施設での利用	11件	0.5%
■ 温泉施設での利用	27件	1.2%
■ 飲食店での利用	16件	0.7%
■ 公園・体育施設での利用	15件	0.6%
■ 理容での利用	7件	0.3%
■ 神社・仏閣での利用	19件	0.8%
■ 葬儀での利用	9件	0.4%
■ 目的未確認	449件	19.1%
■ 帰宅利用	456件	19.4%

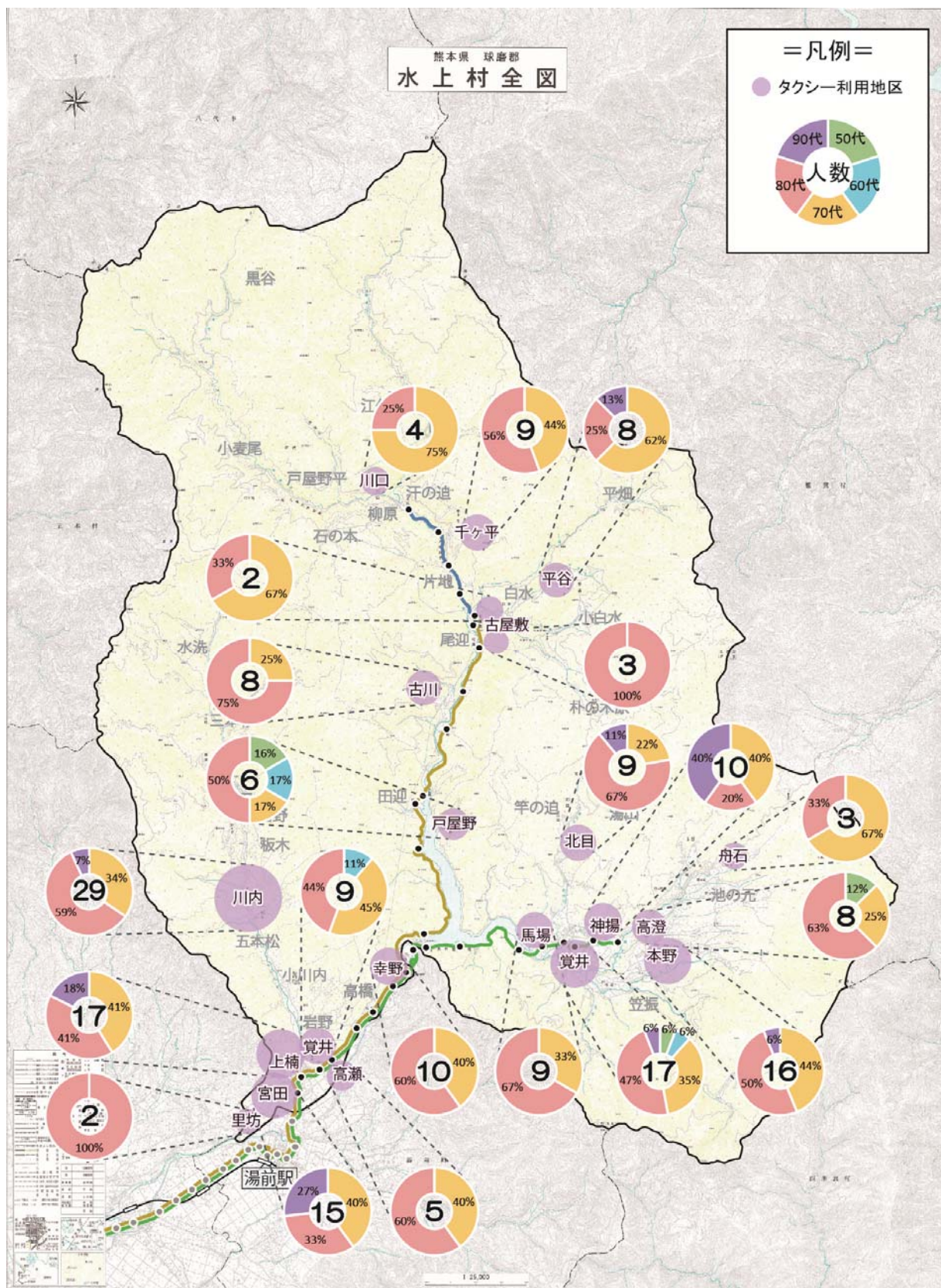


## 第2章 水上村の現状等

### (地区ごとの利用実態)

利用者の居住地は、川内地区での利用が最も多く、その他、上楠地区や宮田地区となっているが、路線バス沿線の地区においても利用が多い状況である。

※70 歳未満は身体障害者手帳を持っている方。

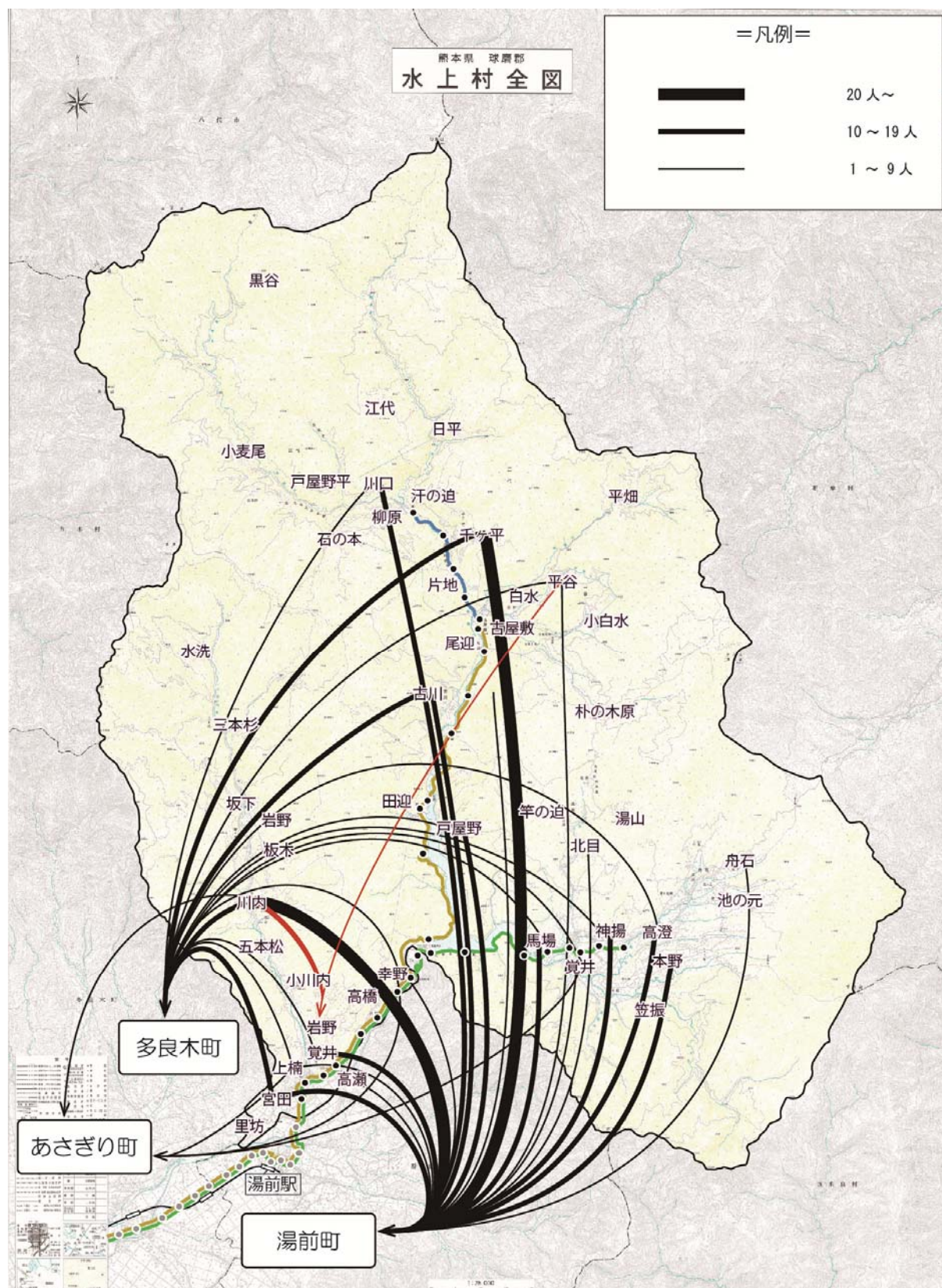




(利用目的別の移動先)

・買い物

買い物目的では、湯前町への利用が集中しており、その他多良木町となっている。

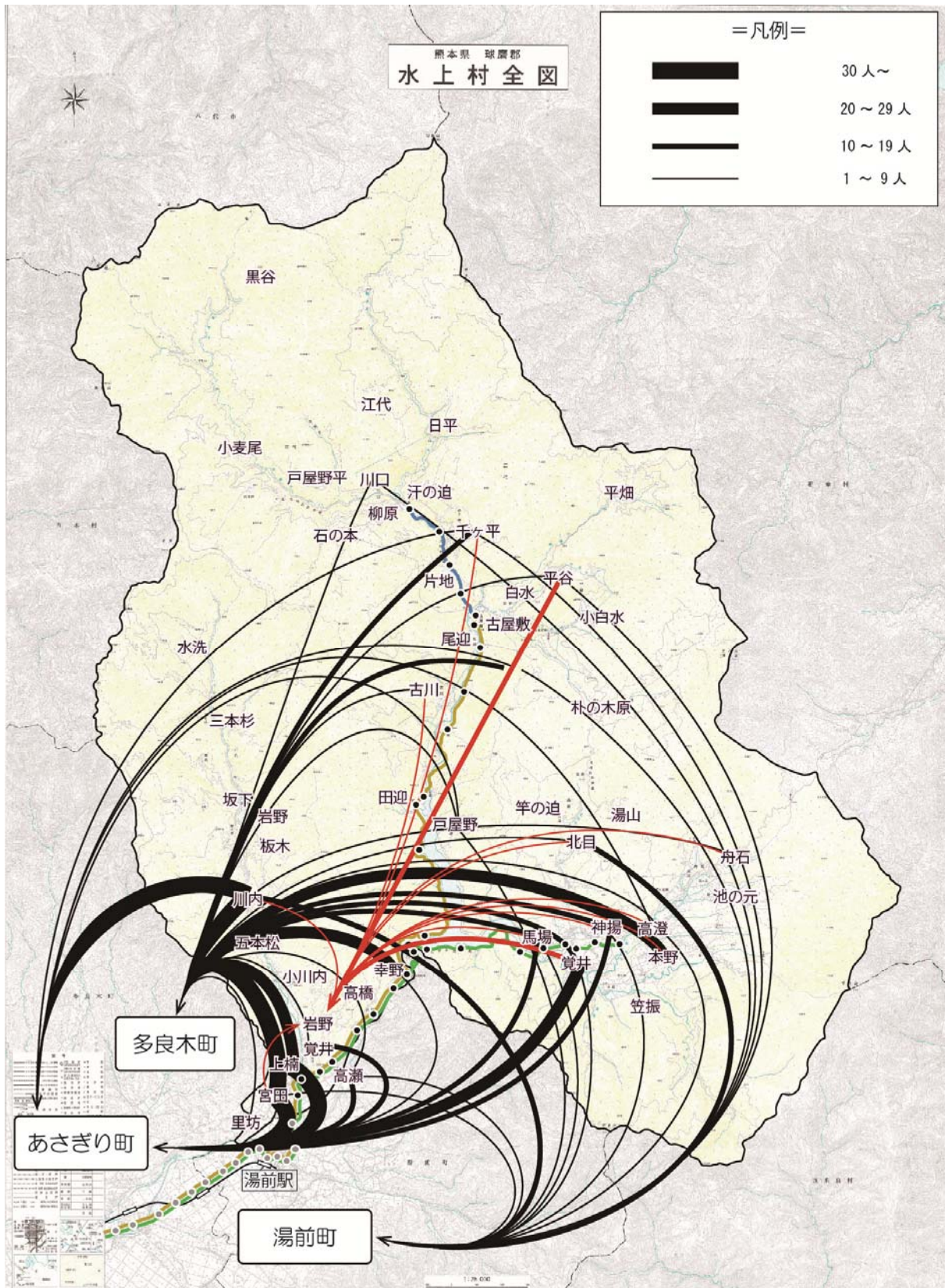




## 第2章 水上村の現状等

### ・病院

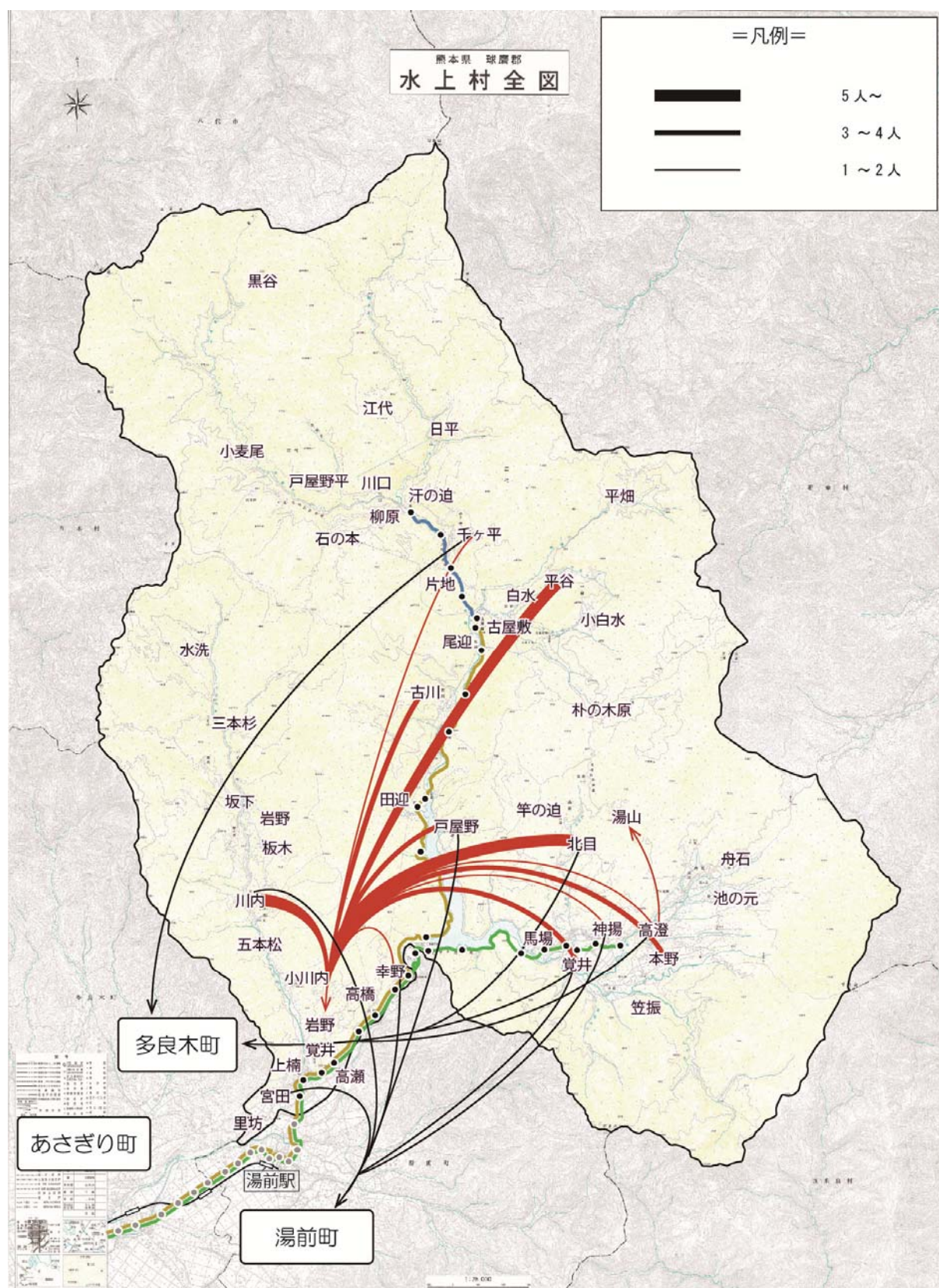
病院目的では、多良木町への利用が集中しており、その多くが公立多良木病院となっているが、湯前町やあさぎり町への利用も見られる。なお、村内での岩野地区への利用も見られる。





- ・公共施設等

公共施設等目的では、主に村内での移動となっており、各地区から岩野地区への利用が主となっている。

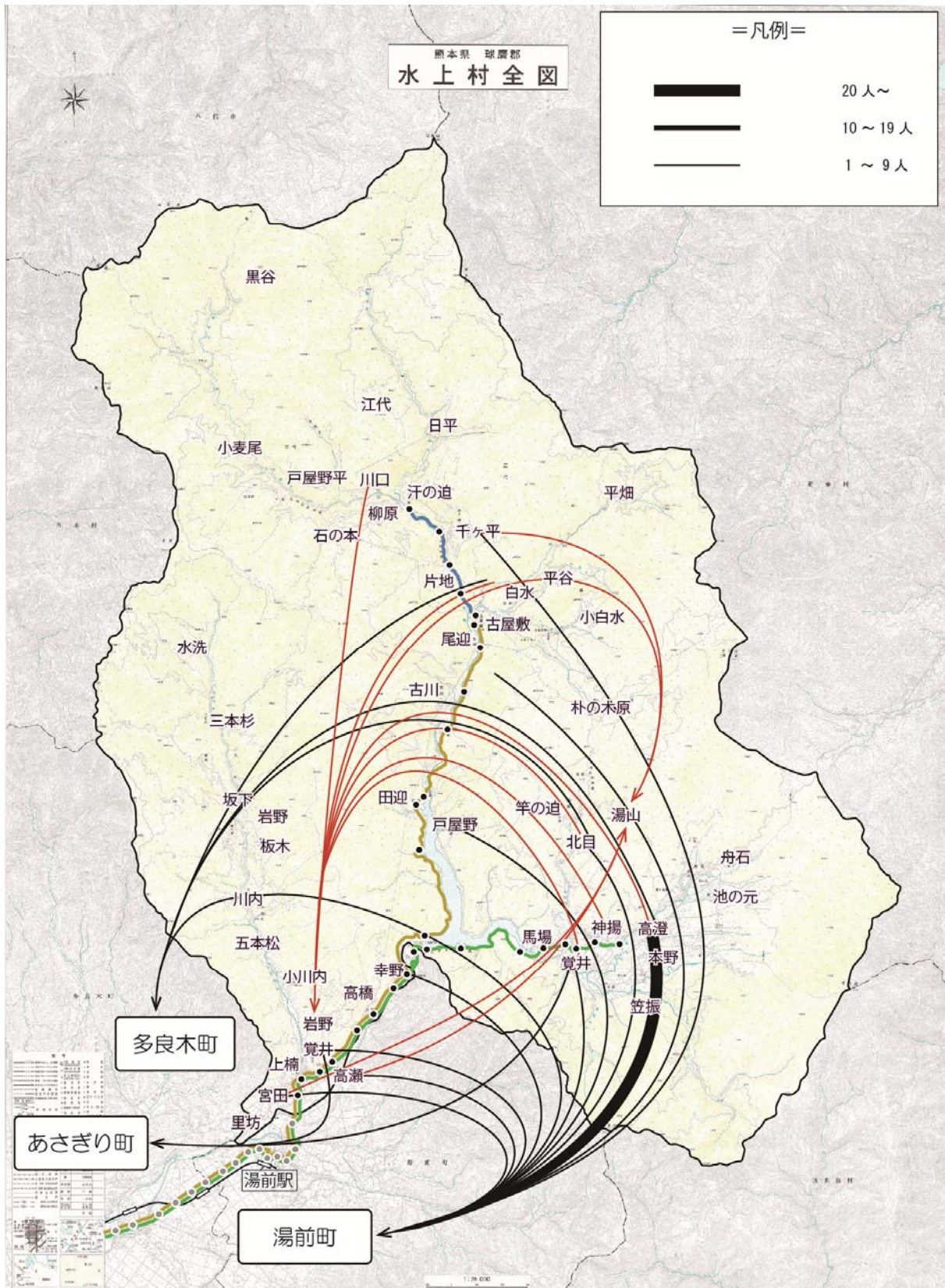




## 第2章 水上村の現状等

### ・その他私用

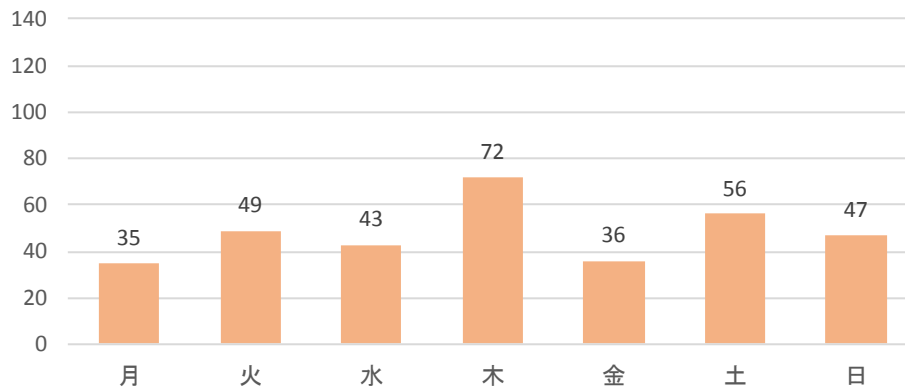
その他使用目的では、湯前町への利用が多くなっているが、村内での移動における利用も見られる状況である。



(利用目的別の利用曜日)

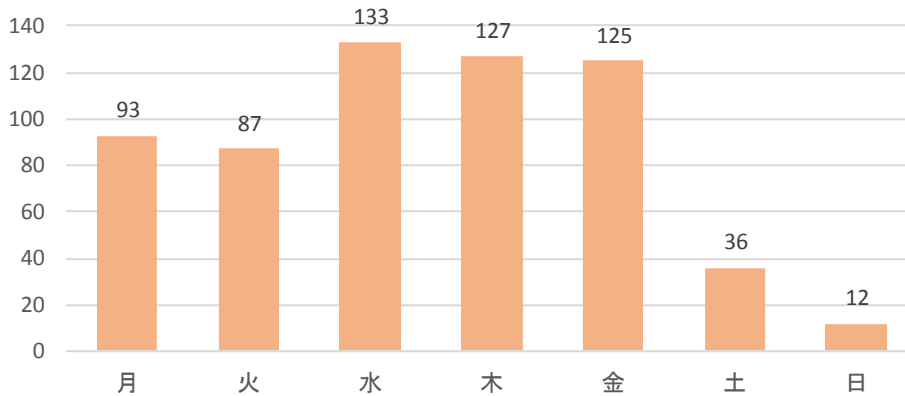
・買い物

買い物目的では、木曜日が最も多く、次いで土曜日となっている。



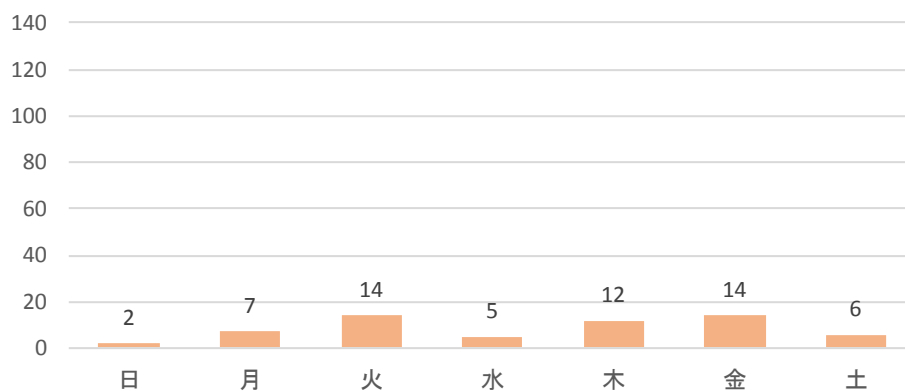
・医療

医療目的では、水曜日から金曜日に利用が集中している。



・公共施設等

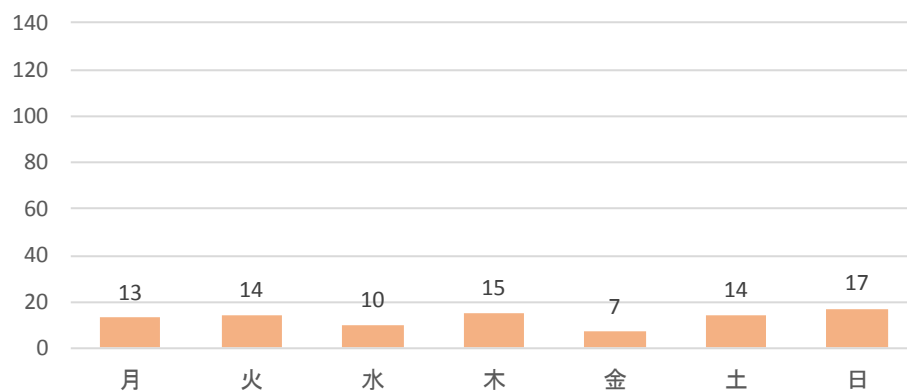
公共施設等の目的では、火曜日と水曜日が若干多いものの、各曜日となっている。



## 第2章 水上村の現状等

- その他私用

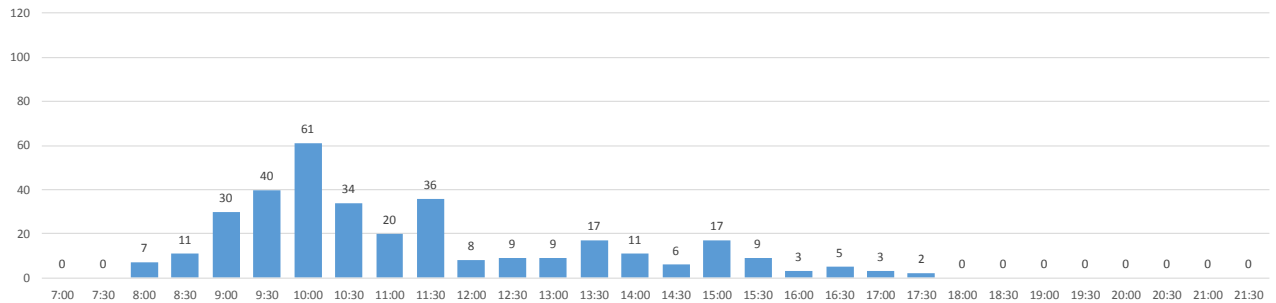
その他使用目的では、各曜日に利用が分散している状況である。



(利用目的別の利用時間帯：乗車時間)

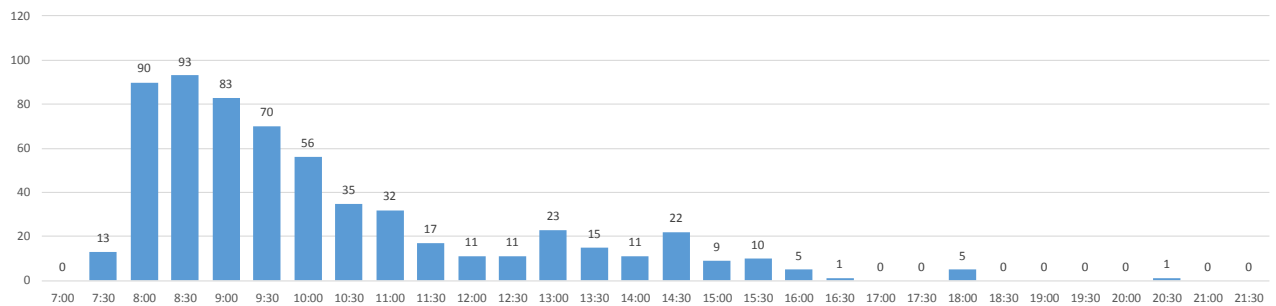
・買い物

買い物目的では、10:00 が最も多く、基本的に 9:00～11:30 に利用が集中している。



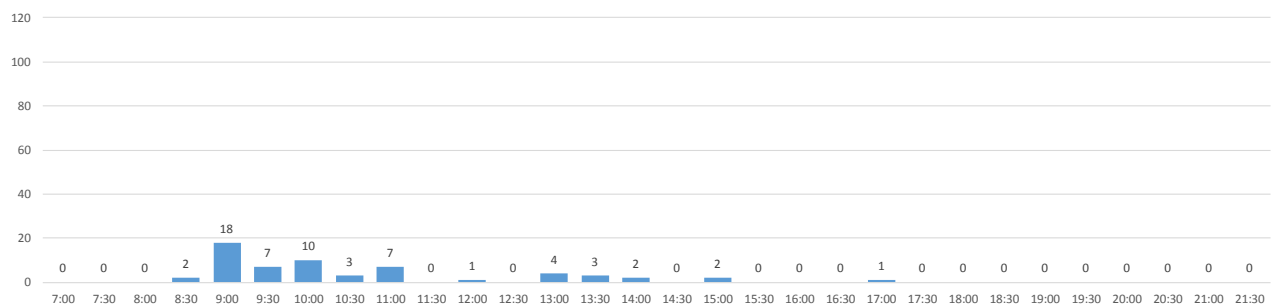
・医療

医療目的では、8:00～9:00 が特に利用が多く、買い物目的等と比較して早い時間となっている。



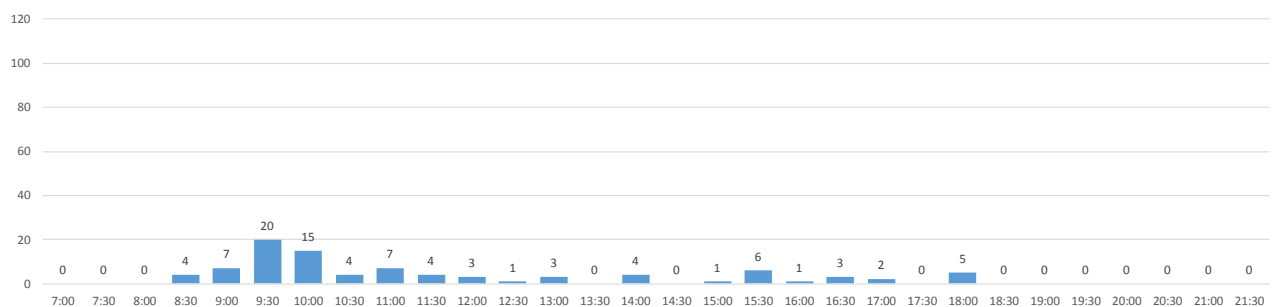
・公共施設等

公共施設等の目的では、9:00 及び 10:00 頃が多くなっている。



・その他私用

その他使用目的では、9:30～10:00 の利用が多くなっている。



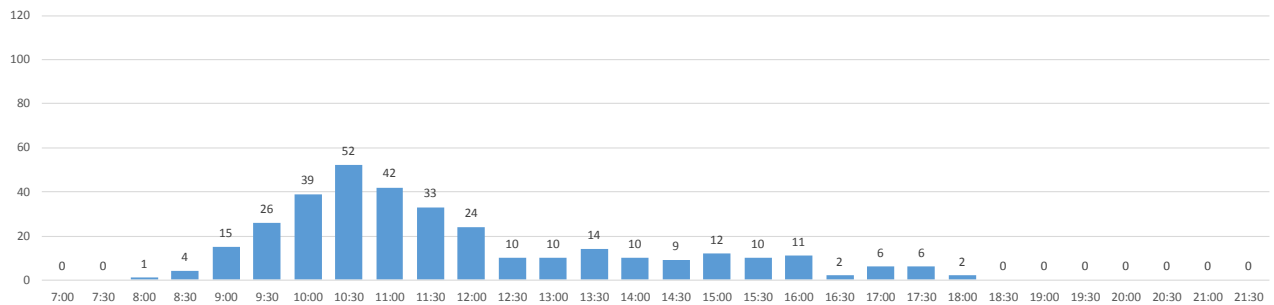


## 第2章 水上村の現状等

(利用目的別の利用時間帯：降車時間)

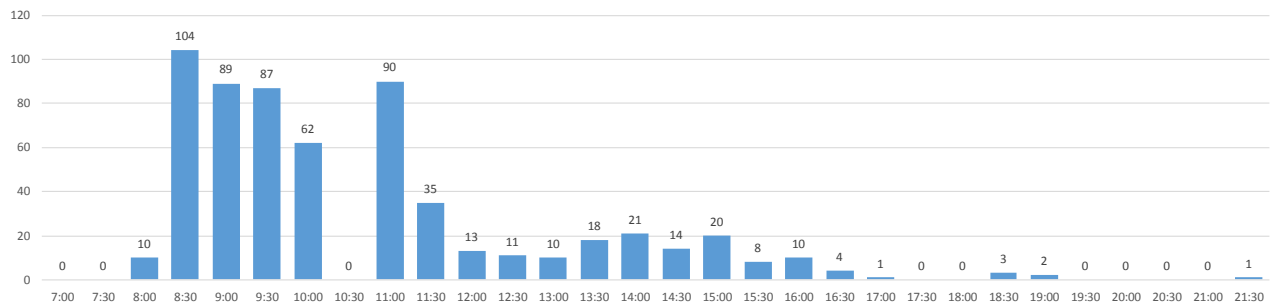
### ・買い物

買い物目的では、10:30 の到着が最も多く、基本的に 9:00～11:30 に利用が集中している。



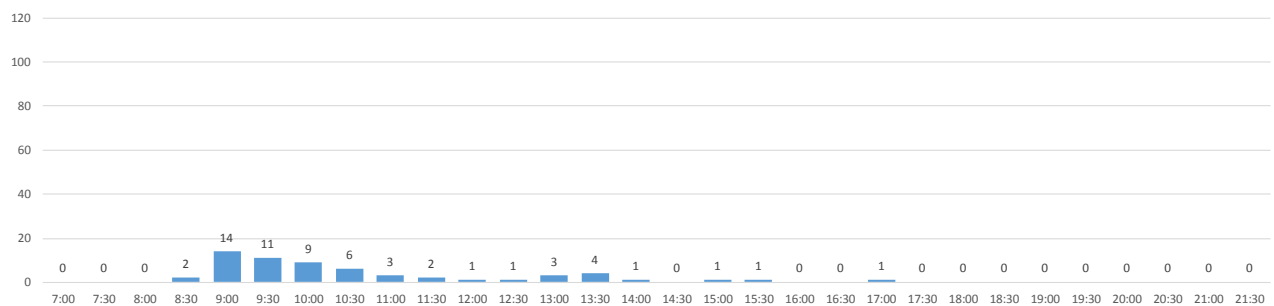
### ・医療

医療目的では、8:30 到着が特に多く、遅くとも 11:00 までに降車している。



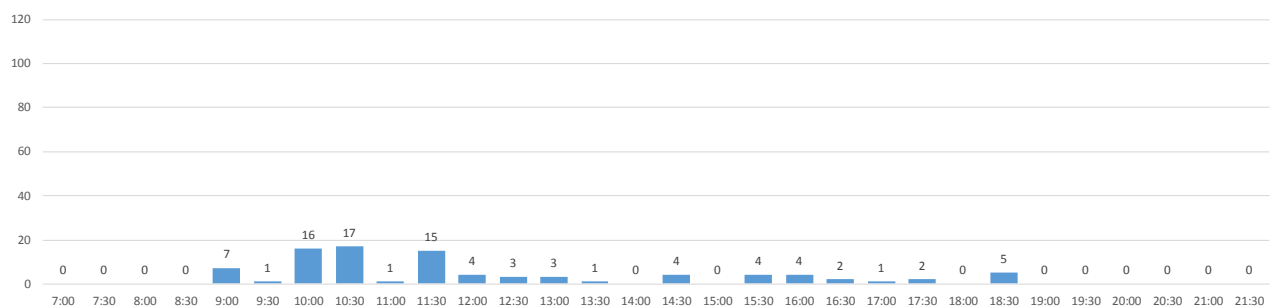
### ・公共施設等

公共施設等の目的では、9:00 及び 10:00 頃が多くなっている。



### ・その他私用

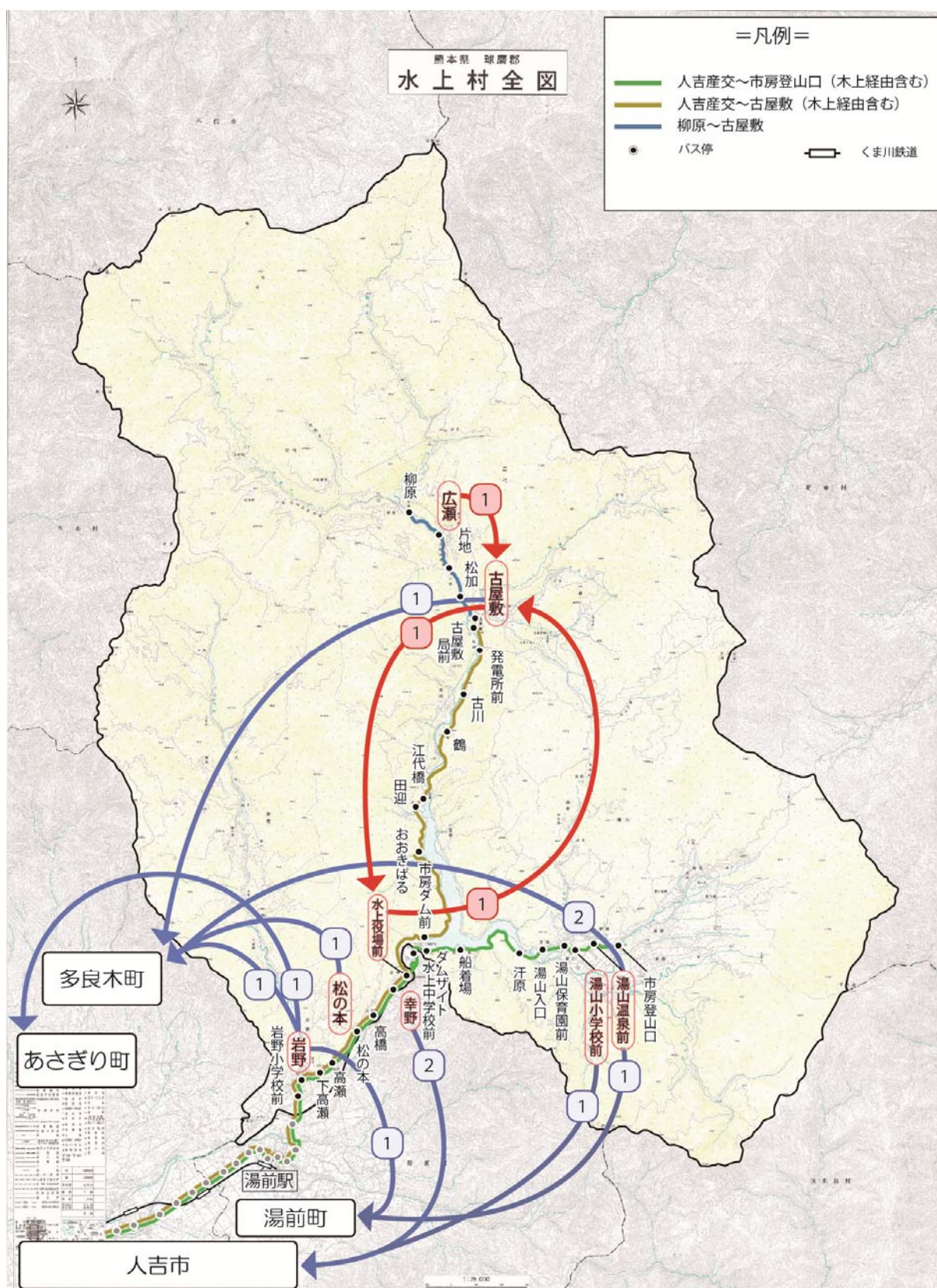
その他使用目的では、10:00～11:30 の利用が多くなっている。



(2)路線バス利用者の利用実態 (H27 人吉・球磨地域公共交通活性化協議会 調査結果)

①平日：水上村内もしくは水上村⇒村外への利用

路線バス利用者は、古屋敷方面では多良木町へ利用する人も見られるが、村内での移動が主となっており、湯山方面や岩野方面からは湯前町・多良木町もしくは人吉市への利用となっている。

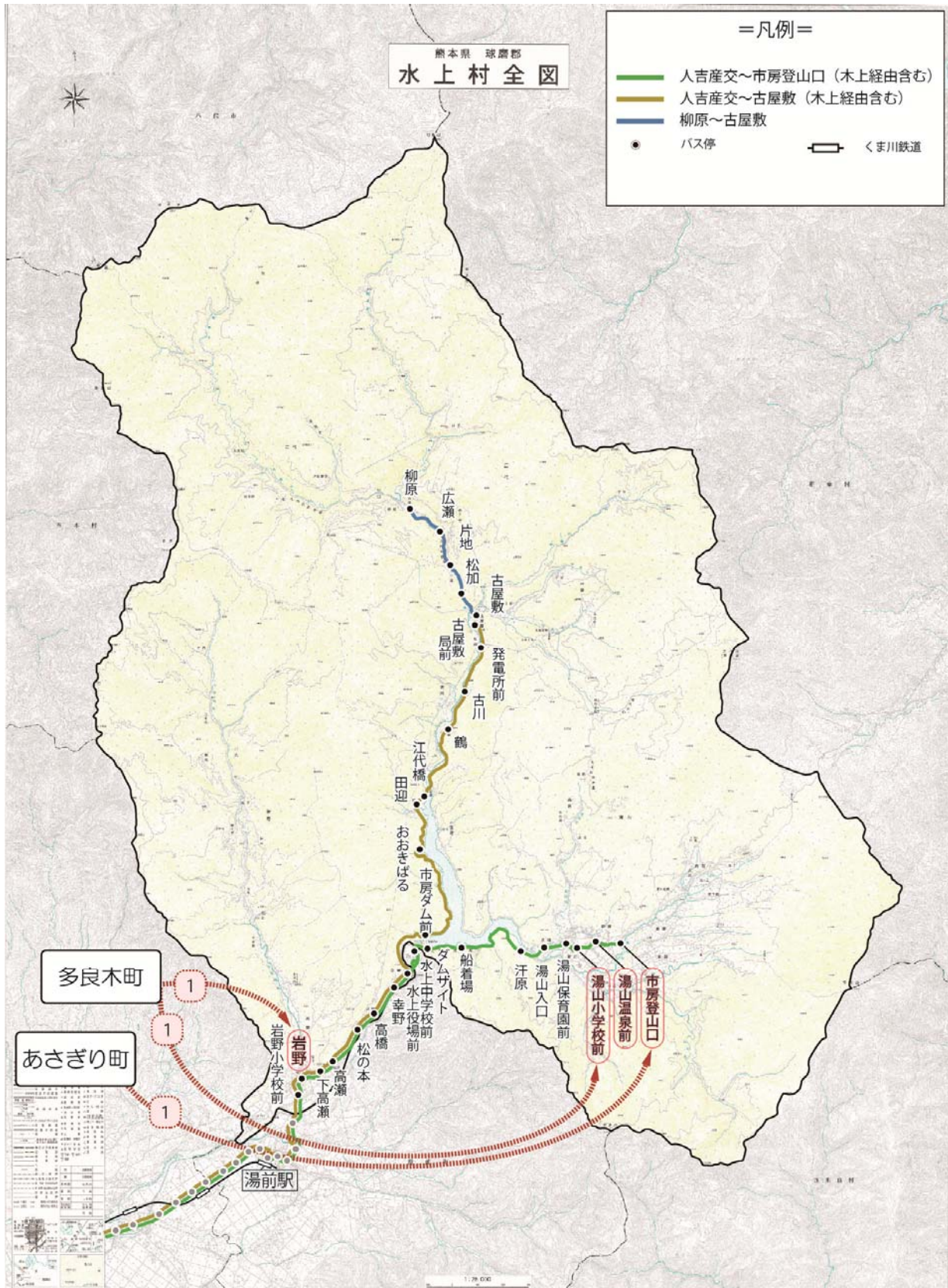




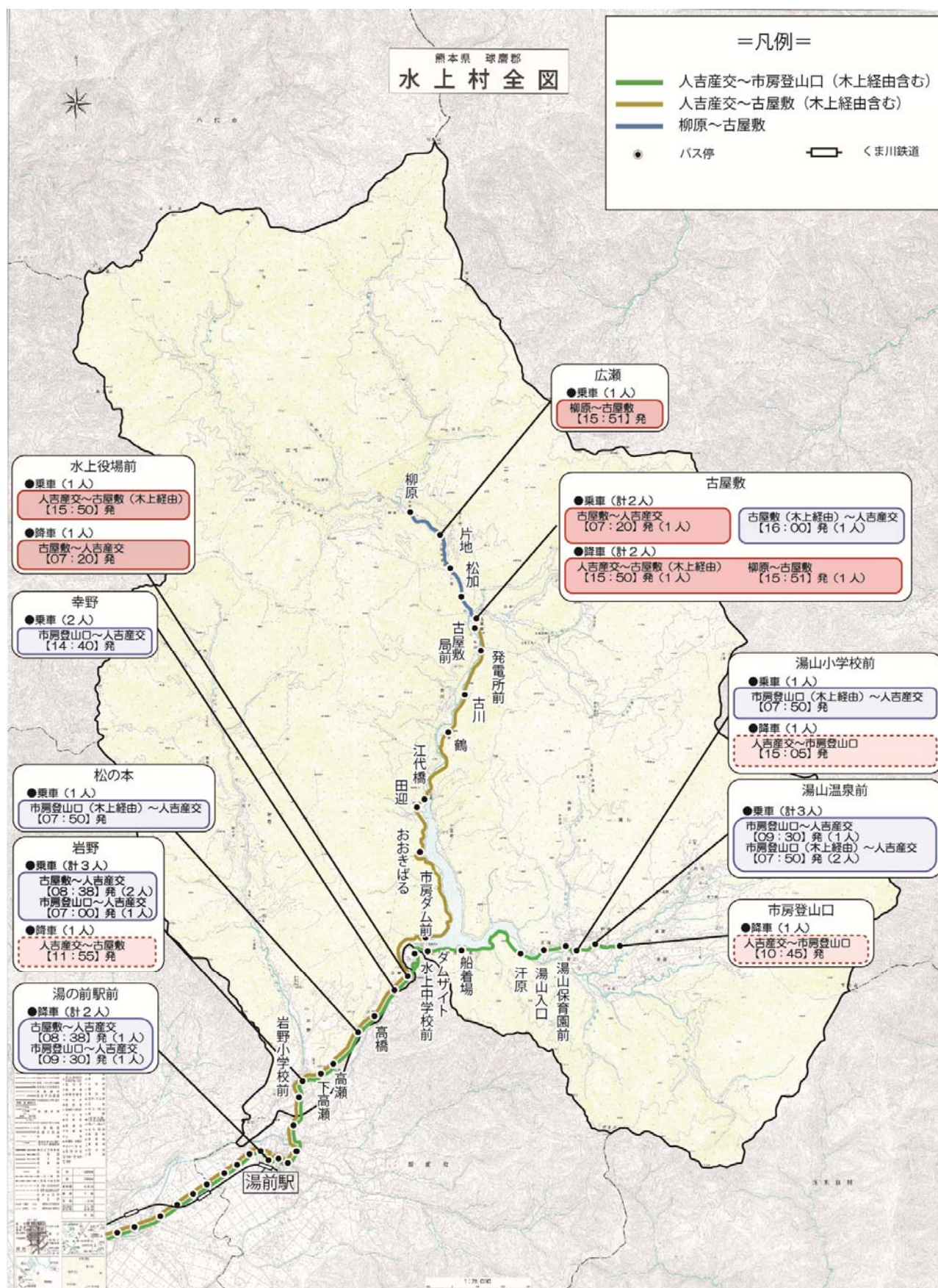
## 第2章 水上村の現状等

### ②平日：村外⇒水上村への利用

村外から水上村への利用は、村内から移動した人が帰宅時に利用することが想定されるが、少ない状況であり、帰宅時には他の交通手段を利用した人が多いことが想定される。









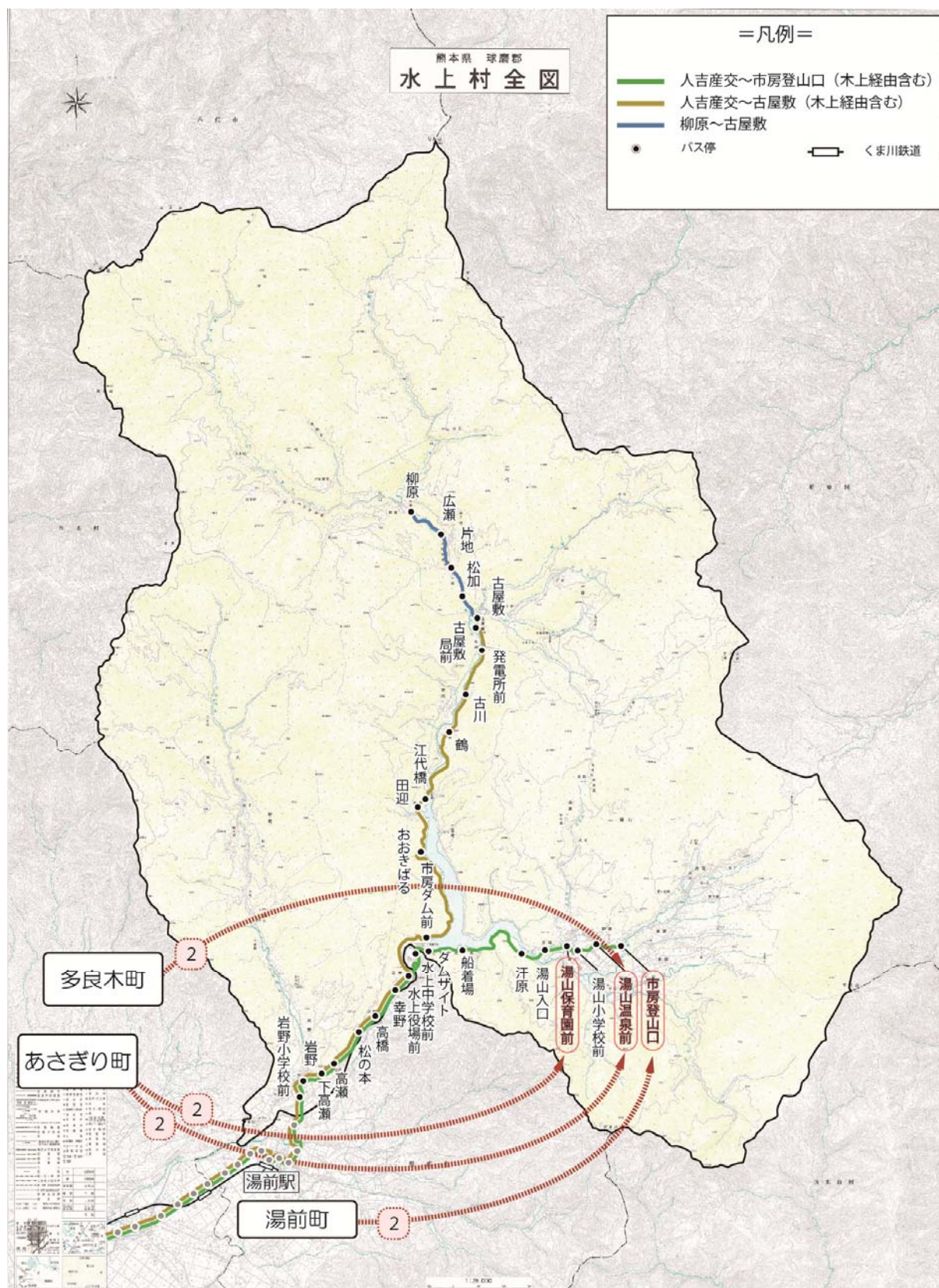
③休日：水上村内もしくは水上村⇒村外への利用



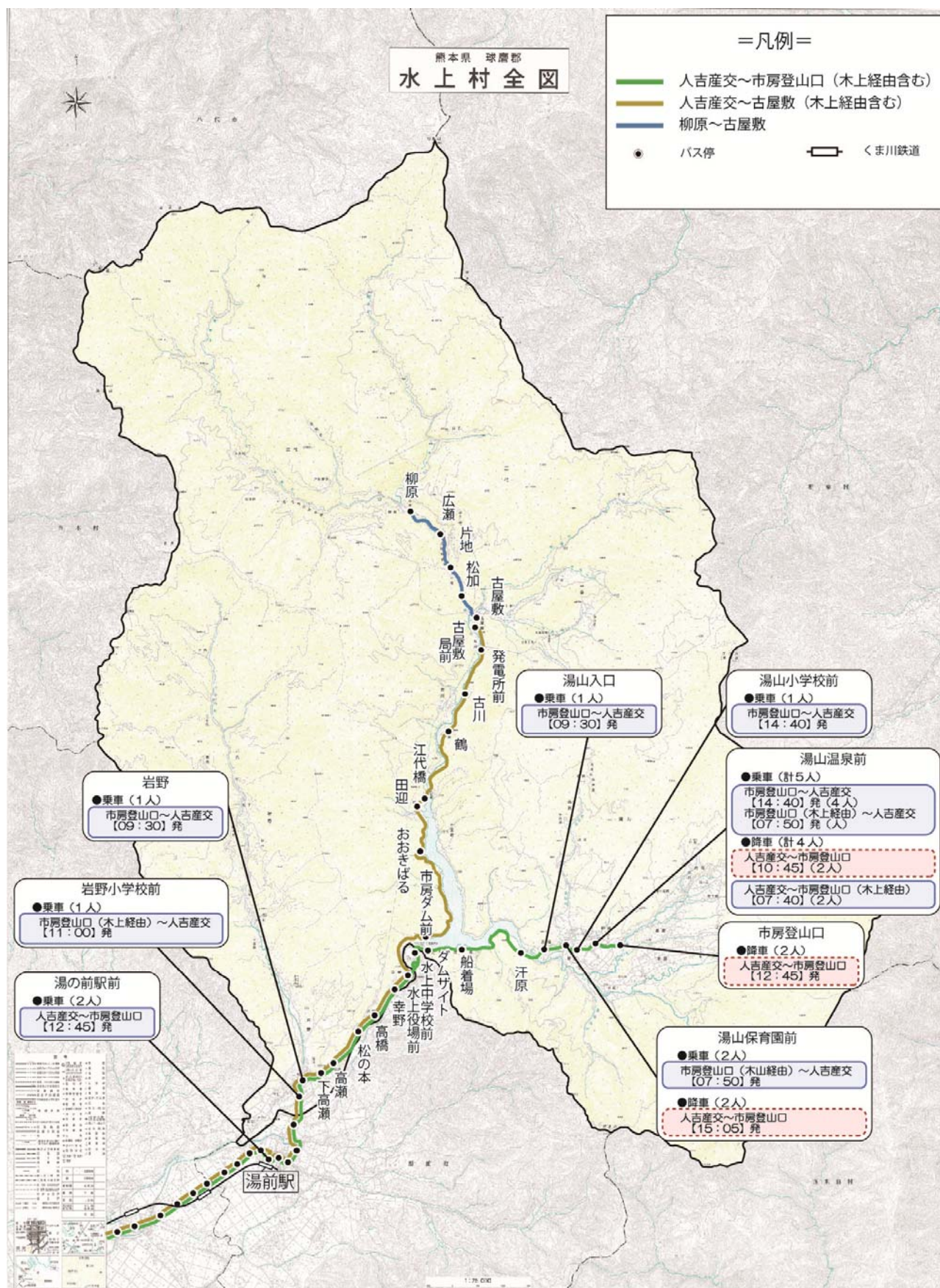


④休日：村外⇒水上村への利用

休日の村外から水上村への利用は、湯山方面への利用となっており、村外の居住者が娯楽等で訪れている状況である。





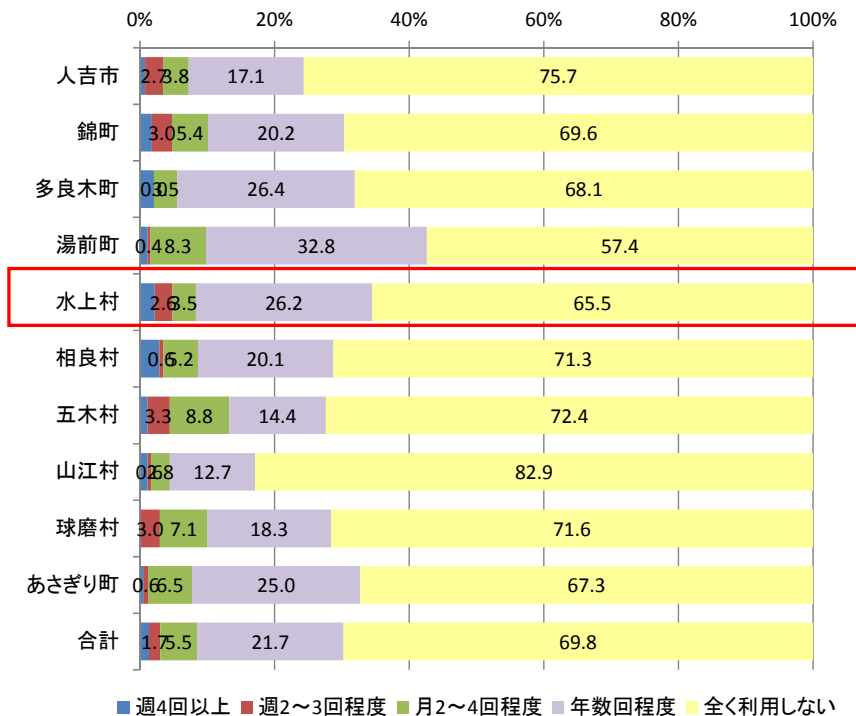


## 4. 地域住民のニーズ等

(1) 地域住民のニーズ等（H27 人吉・球磨地域公共交通活性化協議会 調査結果）

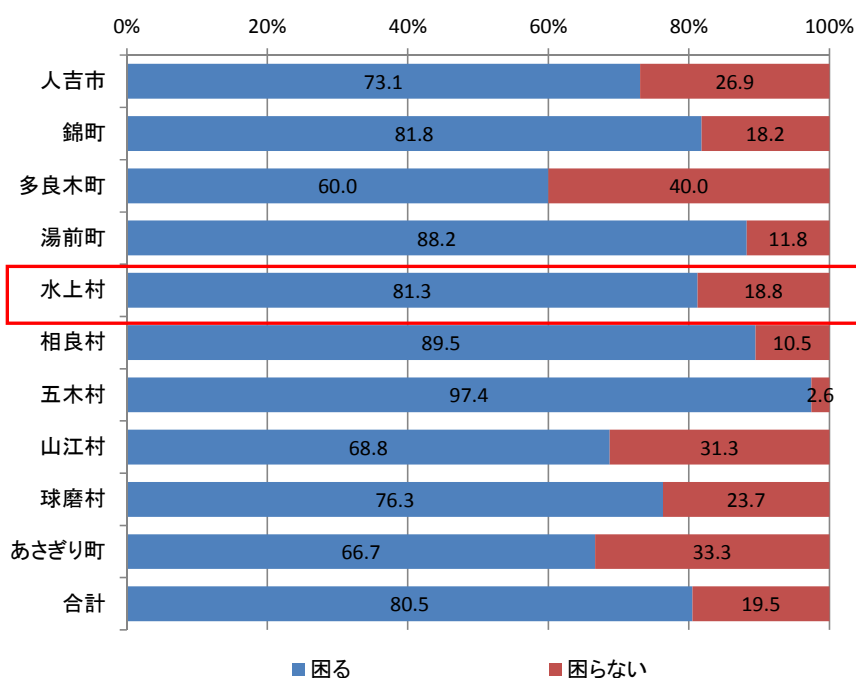
### ① 公共交通の利用状況

公共交通の利用状況は、週2回以上利用している人は数%と少なく、月2～4回程度が6.5%、全く利用しない人が65.5%となっている。



### ② 路線バス等が廃止された場合に困るか否か（公共交通利用者）

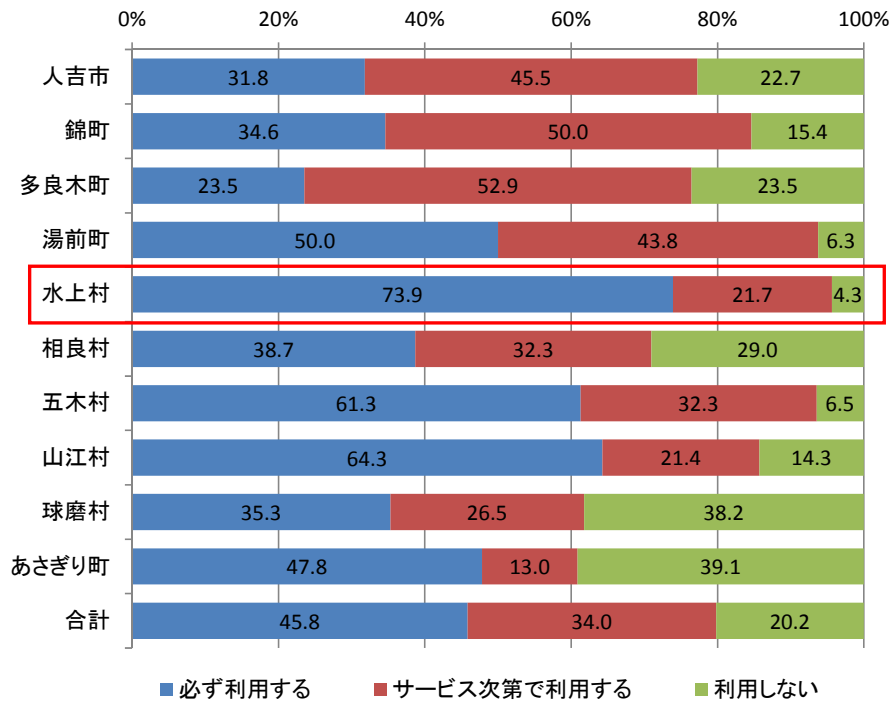
現在の公共交通利用者の80%以上は、路線バス等が廃止された場合に困ると回答しており、交通弱者等の利用が多くを占めることが伺える。



## 第2章 水上村の現状等

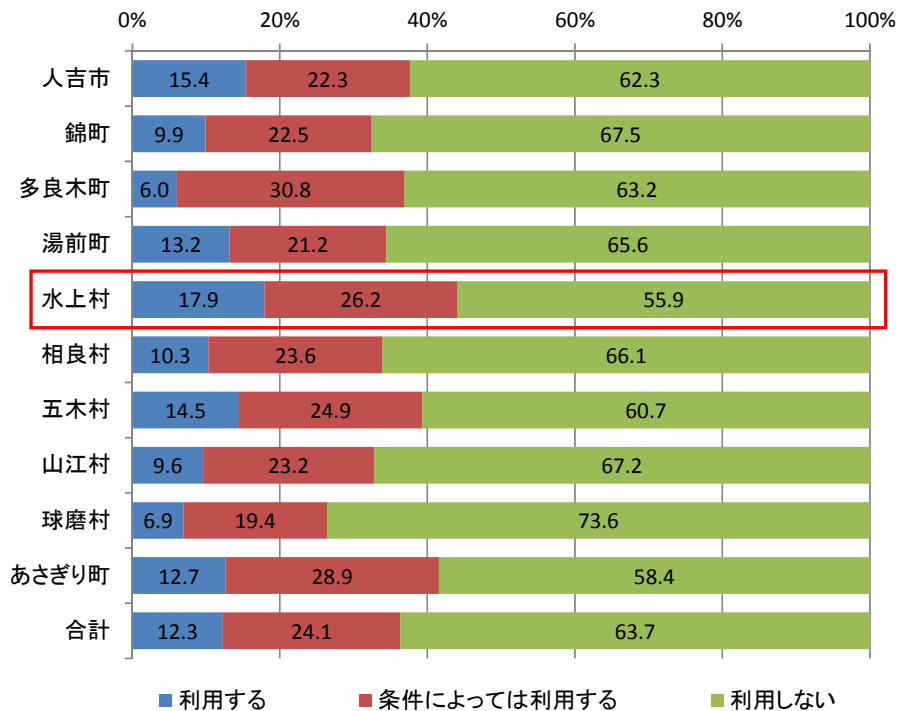
### ③路線バス等のサービス水準低下時における利用意向（公共交通利用者）

現在の公共交通の利用者の70%以上はサービス低下時にも利用すると回答しており、他の市町村と比較して意向が高くなっている。



### ④路線バス等のサービス改善に伴う利用意向（非公共交通利用者）

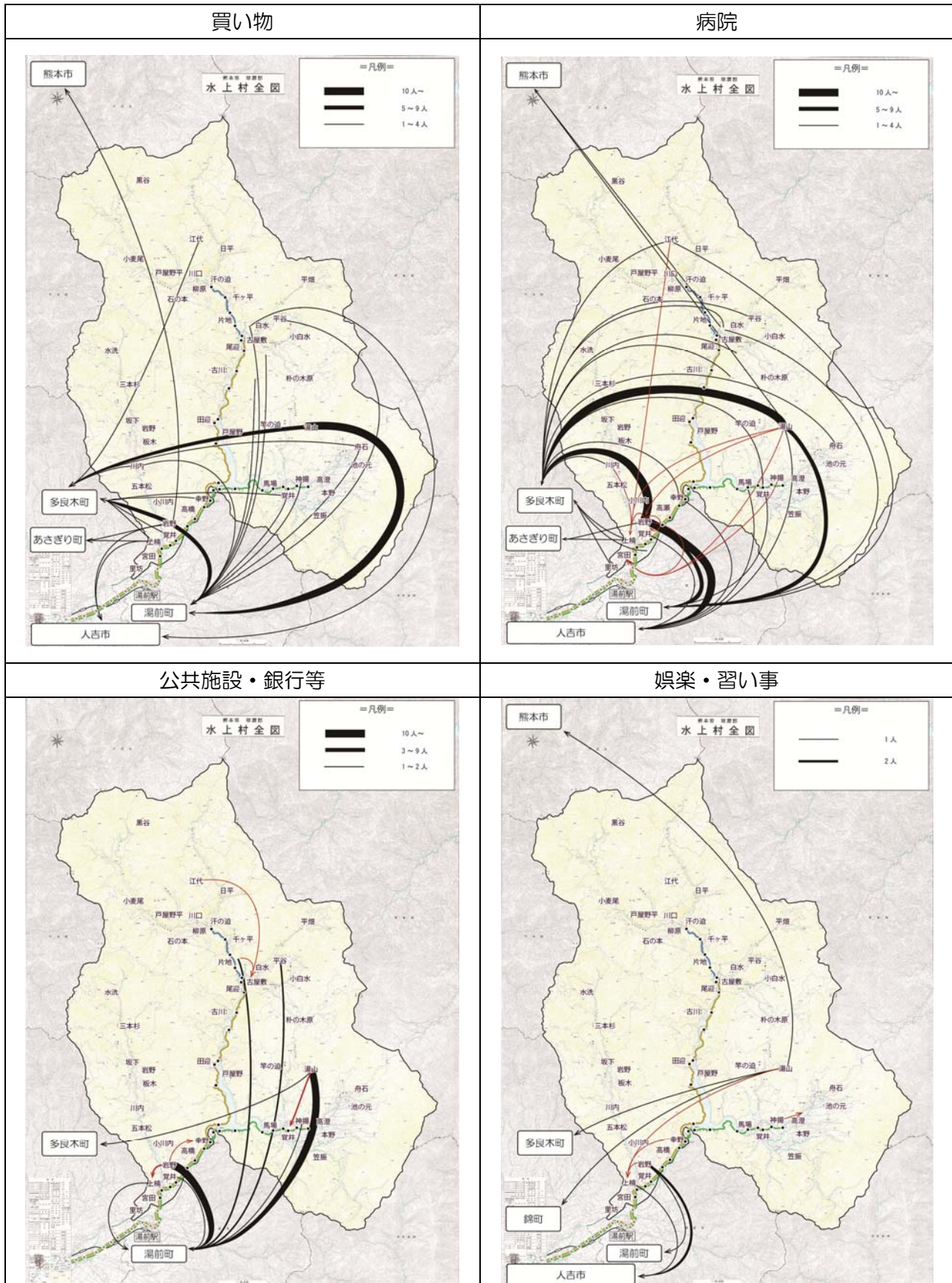
路線バス等のサービス改善をした場合、約18%の人が利用すると回答しており、他の市町村と比較して意向が高くなっている。





⑤日常生活における主な行き先

村民は日常生活において他市町へ依存しており、買い物は湯前町、病院は多良木町及び湯前町、公共施設及び銀行等は湯前町、娯楽・習い事等は人吉市となっている。村内では病院への流動が若干見られる。

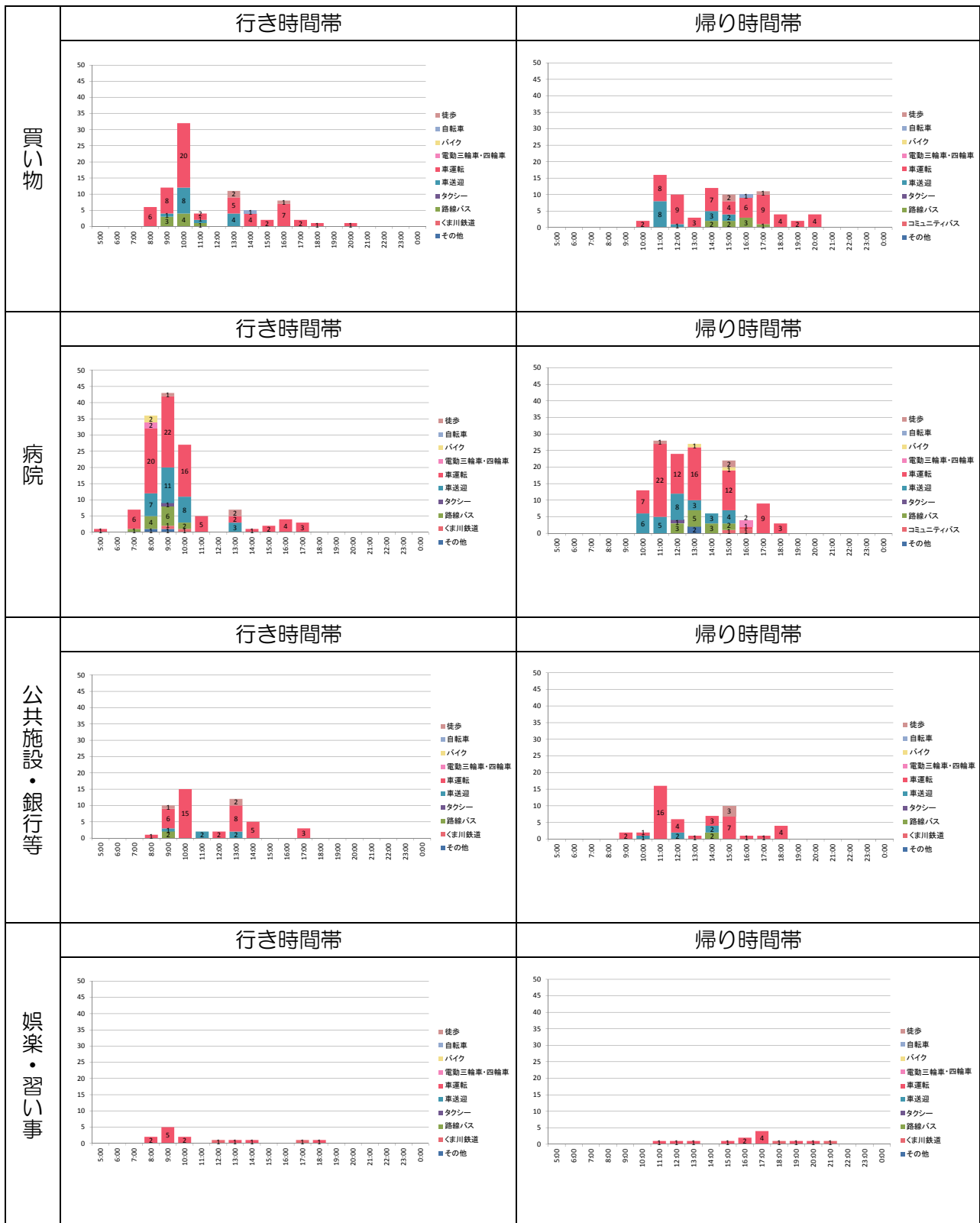


## 第2章 水上村の現状等

### ⑥日常生活における移動時間帯

行きの時間帯は、買い物は10時台に集中しているが、病院は8～10時台で多くなっている。その他目的に関しては行きの時間帯にばらつきがある状況である。

一方、帰りの時間帯は、全ての時間帯でばらつきが見られるものの、概ね午前中もしくは14時までに集中している状況である。

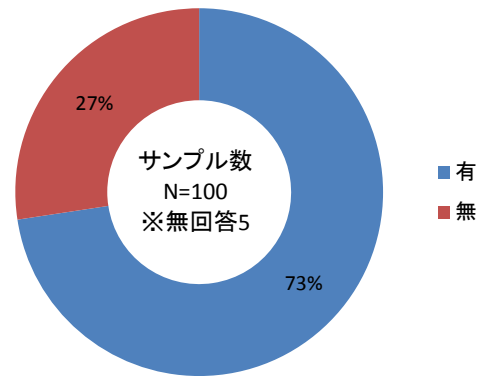




## (2) 高齢者のニーズ等 (H27 人吉・球磨地域公共交通活性化協議会 調査結果)

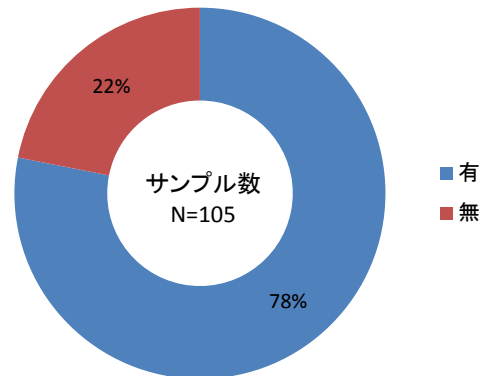
## ① 免許保有状況

65 歳以上の高齢者においては、27%が免許を保有していない状況である



## ② 外出時に自由に使える自動車等の保有状況

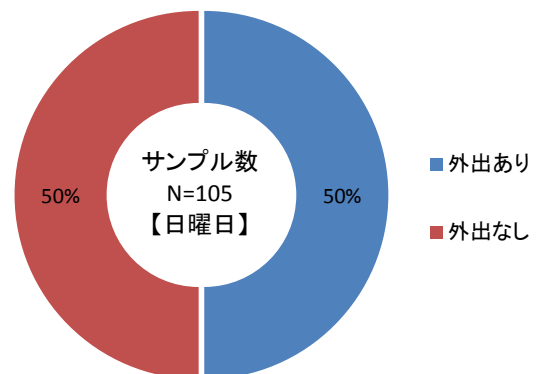
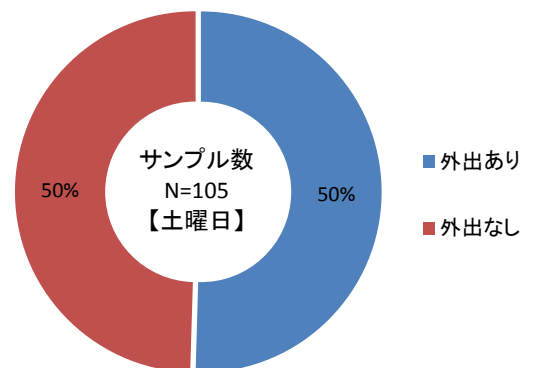
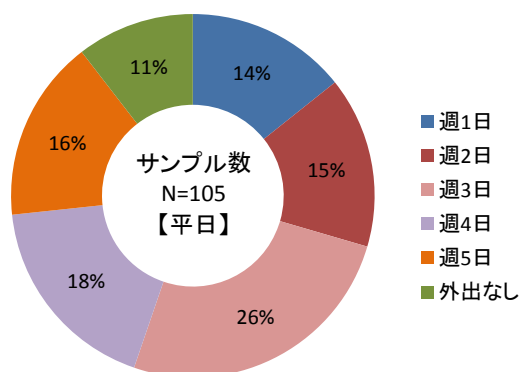
外出時に自由に使える自動車等の有無については、22%が保有していない状況である。



## ③ 外出状況

高齢者の外出状況は、平日は週5日外出する人が16%となっているが、週1~2日で約30%を占めており、外出しない人も11%存在する。

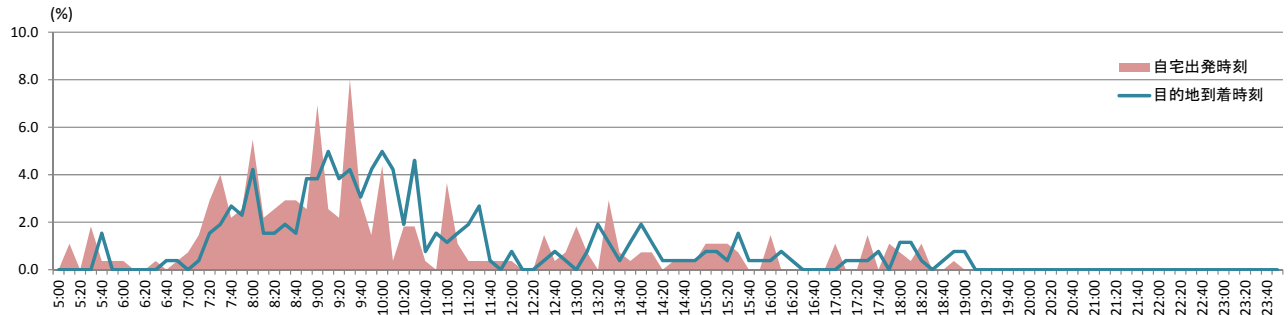
土曜日及び日曜日に関しては、外出の有無が半々の状況である。



## 第2章 水上村の現状等

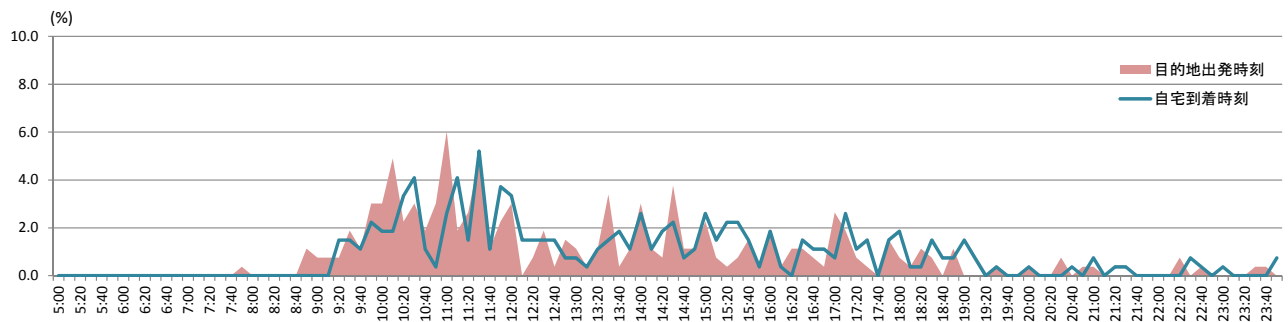
### ④目的地へ行く際の自宅出発時刻及び目的地到着時刻（平日）

目的地に行く際の自宅出発時刻は、8:00～10:00が多くなっており、7:00～8:00も多いなど高齢者は早い時間帯に行動していることが伺える。目的地への到着時刻も11:00までに多くが占める状況である。



### ⑤目的地から帰宅する際の目的地出発時刻及び自宅到着時刻（平日）

一方、目的地から帰宅する時間帯も、午前中が多くなっており、午後であれば14:00前後に集中している状況である。

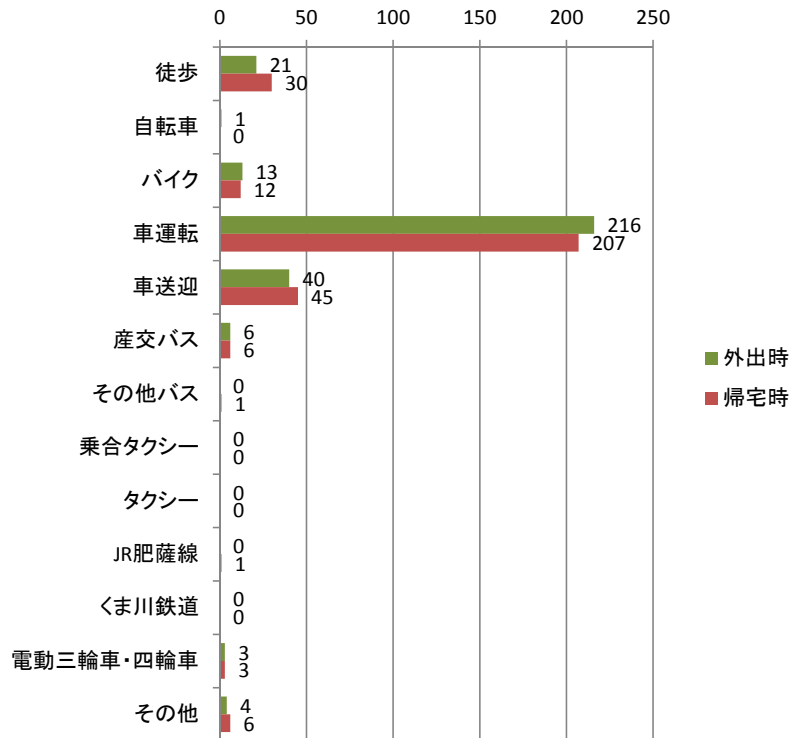




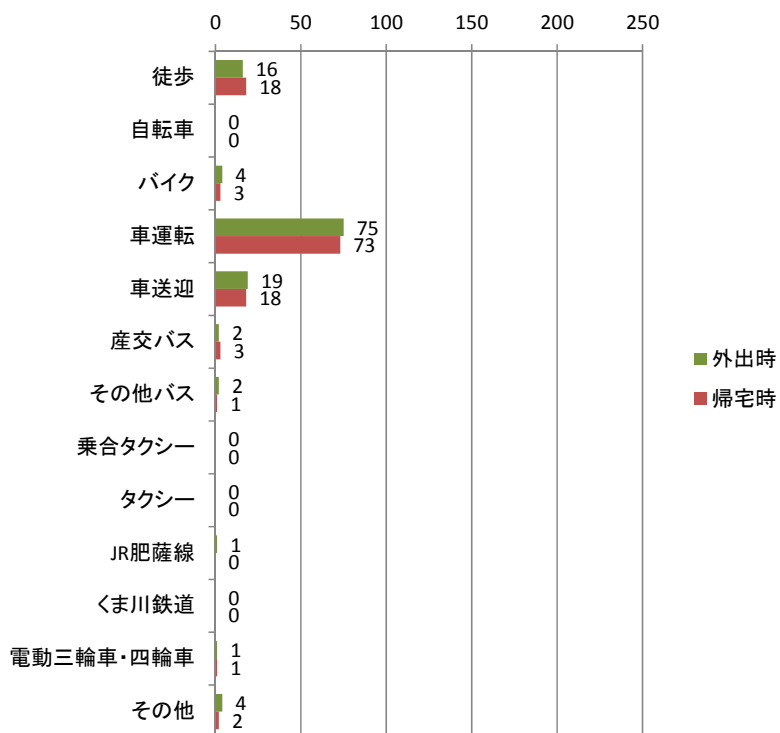
## ⑥外出時の移動手段

外出時の移動手段は、平日・土曜日及び日曜日ともに車運転が多くなっているが、平日と比較して土曜日及び日曜日は車送迎が減少している。路線バスを利用している人は若干見られる状況であるが、少ない。

(平日)



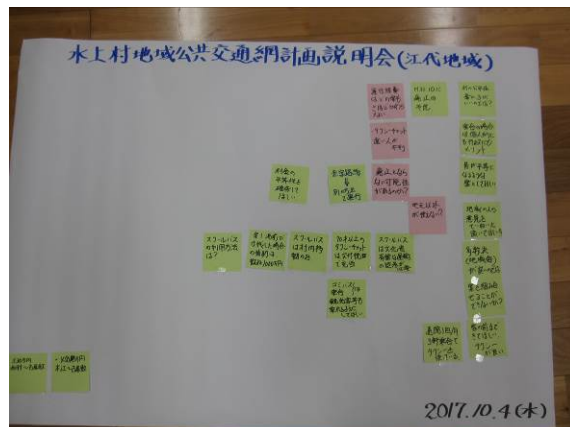
(土曜日及び日曜日)



## 第2章 水上村の現状等

### (3)地域説明会結果

平成 29 年 10 月 4 日（水）19:30～ 江代地域防災拠点施設 参加者 15 名



#### 【主な意見】

- ・ 村民の公平性から考えると全ての地域に乗合タクシーを導入するのがよい。
- ・ 地域の状況に応じて適切な方法を検討してもらいたい。
- ・ 現在でもタクシーチケットの利用など近隣住民と乗り合うなどして利用しており、乗合タクシーが導入された場合でも住民は乗りあって利用すると思う。
- ・ できるだけドア・ツー・ドアがよい。
- ・ コミュニティバスもしくは乗合タクシーにしても観光客等が利用できるようにしてほしい。 など

平成 29 年 10 月 5 日（木）19:30～ 湯山小学校地域交流センター 参加者 10 名



#### 【主な意見】

- ・ 高齢者がバスを利用しないのは足を不自由な人にとって乗降が不便だからではないか。
- ・ 現在のバス利用者は特定の人であり、それらの人を特定できれば、対策は自ずと決まってくるのではないかと。
- ・ ビジネス利用者への対応として、湯前駅で路線バスとのダイヤの接続が必要ではないか。
- ・ くま川鉄道の駅を拠点でフィーダー路線を強化すべきである。例えば公立多良木病院駅など。
- ・ 市房登山口止まりのバスに関してもキャンプ場まで路線を延伸すべきではないか。
- ・ このままでは幹線がどんどん端っこから消えていくだけであるので、従来の発想と異なり、需要を新たに生み出す方法も多角的に議論してもらいたい。 など



平成 29 年 10 月 10 日（火）19:30～ 岩野公民館大会議室 参加者 8 名



## 【主な意見】

- ・くま川鉄道と路線バスが並行して幹線が運行しているのは無駄ではないか。
- ・くま川鉄道と路線バスが相互に乗り合うことができればよい。
- ・車に乗れなくなったら地域にあった方法で対応するのを希望するが、タクシーチケット助成制度の拡充などを希望する。
- ・川内地区では以前スクールバスを利用するのを検討したが利用者がいなく、路線バスは利用しないと思う。
- ・現在運行している大きな車両ではなく、もっと小さく小回りが利く車両で運行できないか。など

※その他、ふれあい会での主な意見

平成 29 年 10 月 17 日（火） 江代地区ふれあい会 江代集会場 参加者 10 名

## 【主な意見】

- ・路線バスは利用しないとともに、もったいない。
- ・停留所が遠いなど、移動はタクシーが基本。
- ・元気があるうちは良いが、高齢になると停留所まで歩くことも困難。
- ・タクシー利用助成の継続を望む。 など

平成 29 年 10 月 19 日（木） 岩野地区ふれあい会 水上村保険センター 参加者 10 名

## 【主な意見】

- ・停留所が遠いととともに、路線バスは乗降口が高くて利用しにくい。
- ・タクシー利用券の負担が増加したため、路線バスを利用する機会が増えた。
- ・タクシー利用助成の継続を望む。 など

平成 29 年 10 月 20 日（金） 湯山地区ふれあい会 湯山小学校地域交流センター 参加者 17 名

## 【主な意見】

- ・路線バスの継続を希望する。
- ・一方で、停留所が遠いととともに、路線バスは乗降口が高くて利用しにくい。
- ・路線バスを自宅付近まで延長できないか。
- ・タクシー利用助成の継続を望む。 など